

縮尺 10 万分の 1

土地分類図付属資料

(佐賀県)

昭和 49 年

経済企画庁総合開発局

縮尺 10 万分の 1 土地分類図付属資料

目 次

利用者のために

A 土地条件等の概要

1. 地形区分とその性状等の概要	1
2. 表層地質の分布とその性状等の概要	7
3. 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要	12
4. 土地利用可能性分級等の概要	21
4-1 土地利用現況の概要	21
4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要	26

B 統計の部

1. 土地利用現況	30
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳	30
1-2 D.I.D. おおむね 10 万人以上の都市の土地利用現況の内訳	34
2. 自然的土地条件	36
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳	36
2-2 標高区分別面積市町村別内訳	38
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	40
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳	44
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳	48
3. 土地利用可能性分級	52
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳	52
3-2 土地利用可能性分級と自然条件との関連	54
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	54
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連	54
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連	54
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連	55
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	56
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳	58

利用者のために

I 編集方針

この付属資料は、縮尺10万分の1土地分類図についての概要説明と面積統計とに分けられるが、面積統計については、原則としてそれぞれの縮尺10万分の1土地分類図の統計項目に対応した図幅について面積を測定し、製表作成したものである。

たとえば、2-1表「傾斜区分別面積市町村別内訳」は「傾斜区分図」(オーバーレイ)を市町村の行政区画単位に面積測定して作成したものであり、3-2-1表「土地利用可能性分級と地形区分との関連」は「土地利用可能性分級図」および「地形分類図」を用い、前者においては、土地利用可能性分級である類地のパターンを、後者においては、地形区分のパターンをそれぞれ重ねあわせて測定し、両者の面積的関連を把握して作成したものである。

ただし、1-1表「土地利用現況別面積市町村別内訳」については県統計資料により作成し、1-2表「D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳」については当該市に照会して作成した。なお、縮尺10万分の1土地分類図の各図幅と、付属資料統計資料との関連を示すと次のとおりである

統計表作成のために使用した土地分類図等の一覧

統計表の名称	1 地 形 分 類 図	2 起 伏 量 ・ 谷 密 度 図	3 傾 斜 区 分 図	4 表 層 地 質 分 類 図 (平面的)	5 表 層 地 質 分 類 図 (垂直的)	6 土 壤 図	7 土 壤 生 産 力 可 能 性 分 級 図	8 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図 (土地利用現況)	9 土 地 利 用 可 能 性 分 級 図	10 標 高 区 分 図 (標高)	11 都 道 府 県 統 計 資 料 等
1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳											○
1-2 D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳									○		○
2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳			○								
2-2 標高区分別面積市町村別内訳										○	
2-3 地形区分別面積市町村別内訳	○										
2-4 表層地質分布面積市町村別内訳				○							
2-5 土壌統群分布面積市町村別内訳						○					
3-1 土地利用可能性分級別面積市町村別内訳									○		
3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連	○								○		
3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連			○						○		
3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連									○	○	
3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連							○		○		
3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳									○		○

II 利用上の留意事項

土地分類図の各図から測定された項目別パターンの面積は、各図の図示表現の技術的な制約、すなわち縮尺10万分の1の土地分類図の場合には最小図示単位として1km²(図上では10mm四方)を原則とし特殊な場合においても最小径400m(図上で4mm)を限度としたため実在の面積とは一致しない場合もあると考えられる。

とくに、パターンの小さい性格をもつ分類項目にあっては、やや少な目に数値が出る傾向がある。また道路、河川等はその周辺の分類に含まれるのでやや大き目に数値が出る傾向がある。

したがって、この統計表を各種資料として使用する場合には、項目ごとの絶対値を使用するのではなく概括的に握らないし項目の構成比率等を用いるようにされたい。

III 表中の記号について

「0」は数値が掲載単位に満たないもの

「-」は該当事項のないもの

「 」空白は編集時において資料がなく不明のもの

IV 統計資料について

ア 土地利用現況別面積市町村別内訳

- | | | |
|-----------------|--------------------------|----------|
| (1) 市町村別面積 | 「昭和45年全国都道府県市区町村別面積調」 | 国土地理院 |
| | 「昭和46年度版 佐賀県勢要覧」 | 佐賀県統計調査課 |
| (2) 農地、草地及び林地面積 | 「1970年世界農林業センサス結果報告書」 | 佐賀県統計調査課 |
| | 「第18次佐賀農林水産統計年報」 | 佐賀農林統計協会 |
| (3) 宅地面積 | | 佐賀県地方課 |
| (4) 公共用地・その他面積 | 総面積より農地、草地、林地、宅地面積を差引いた数 | |

イ D・I・Dおおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

該当市に照会

ウ 自然的土地条件、土地利用可能性分級

市町村別面積 「昭和47年全国都道府県市区町村別面積調」 国土地理院

V 調査機関一覧

総括調整	佐賀県企画部企画第二課	佐賀市城内1丁目1-59	TEL09522-4-2111
地形分類	佐賀大学教育学部・農学部	佐賀市本庄町1	TEL09522-4-5191
表層地質	佐賀大学教育学部	〃	〃
土 壤	佐賀県農業試験場	佐賀県佐賀郡川副町南里	TEL09524-5-2141
	佐賀県農林部林務課	佐賀市城内1丁目1-59	TEL09522-4-2111
	佐賀県林業試験場	佐賀県佐賀郡大和町於保	TEL09526-2-0054
土地利用現況	同 上		

土地利用可能性分級 佐賀県農業試験場
佐賀県林業試験場

A. 土地条件等の概要の部

1. 地形区分とその性状等の概要

佐賀県を地形的に区分する場合、各地区の面積比、地質構造と地史などを考えて、4区分（佐賀県大観昭和8年）または6区分（佐賀県の地質と地下資源、昭和29年）とされた例がある。本分類の基準に従って地形区分を行うと、かなり細分された形になった。

「佐賀県の地質と地下資源」における島嶼部を除く5区分を、本分類図の地形区分と対応させてみると、だいたい別表のようになる。

本図における地形区分		佐賀県の地質と地下資源の区分
I 山地	A 脊振山地	西部丘陵地域
	B 鬼ヶ鼻山地	
	C 八幡岳山地	
	D 青螺・黒髪山地	
	E 西岳山地	
	F 大野原山地	
	G 虚空蔵山地	
II 火山地	多良火山地	多良岳火山地域
III 丘陵	A 上場丘陵部	東松浦高原地域
	B 杵島・松浦丘陵部	
IV 段丘	A 鳥栖段丘	佐賀平野地域
	B 三神段丘	
V 低地	A 佐賀平野	
	B 松浦川下流低地	
	C 有田・伊万里川低地	

1 - I 山地

7区分された山地のうち、脊振山地は他の山地と規模において著しく異っているが、地質的にも大きな違いがある。脊振山地は主に変成岩類と深成岩類より成り、他の山地が堆積岩類と火山岩類などの表成岩類で構成されているのに対して、広義の深成岩類で作られている。また脊振山地の変成岩類が生じた地質時代は古生代末、深成岩類のうち最も新しいものでも中生代白亜紀とされていて、その他の山地を構成する新生代第三紀の堆積岩類およびその後生じた火山岩類などより古く、脊振山地は新生代には堆積盆地の北縁を形作っていたと考えられている。

1 - I - A 脊振山地

北部・中部・南部の3山地にわけられる。北部と南部は東西に長い山地で、高原状の中部山地の両側に

聳えている。この山地には北東および北西方向の断層系が発達し、河川の流路はこの断層系の方向を反映しているものが多い。

A₁ 北部山地は福岡県との県境をなす脊梁山地で、東から蛤岳（863 m）、脊振山（1,055 m）、金山（967 m）、雷山（955 m）、羽金山（900 m）、浮岳（805 m）などが連なっている。南側は中部山地に接するので起伏量・傾斜ともに大きくはないが、北の福岡県側は急傾斜し起伏量も大きい。

A₂ 中部山地は準平原遺物と考えられており、切峯面図を描くと北山ダム周辺の丘陵部には標高 450～550 m の平坦面が見出され、金立山（502 m）附近まで伸びる。また西方の白石山（794 m）、亀岳（740 m）附近の小起伏山地には北に緩傾斜する標高 700～800 m の平坦面があらわれる。この平坦面の西側は急傾斜して鏡山（284 m）およびその東の丘陵に続くが、この部分は地形的特徴からはむしろ上場丘陵の連続部と見なすことができよう。

A₃ 南部山地は東から彦岳（845 m）、天山（1,046 m）、作礼山（887 m）を連らね、東西方向に伸びる変成岩類の構造に支配された大起伏山地である。傾斜変換線は変成岩類と深成岩類の境界線に一致し変成岩類で構成される頂部が特に急傾斜である。松浦川の支流厳木川は厳木町立草一田間で本山地を切る横谷になっている。

1-1-B 鬼ヶ鼻山地

鬼ヶ鼻山（468 m）を中心とする鬼ヶ鼻山塊は、北に傾斜する古第三系上に火山岩類が重なっている山地で、南側急傾斜、北側緩傾斜のケスタ地形をしめす。東側の両子山塊はほぼ水平に重なる玄武岩溶岩流のため、メーサ状地形をしめしている。

1-1-C 八幡岳山地

八幡岳（764 m）を中心とする八幡岳山塊、徳連岳（445 m）を中心とする徳連岳山塊および眉山（518 m）を中心とする眉山山塊にわけられる。

八幡岳山塊は盆状構造をもつ古第三系の上にほぼ水平に重なる玄武岩溶岩流をのせたビューット状山地である。山地中央部を構成する玄武岩の急斜面下には局部的に平坦面があって集落地となっているが、この平坦面はしばしば古い崩壊性地すべり跡の地形である。古第三系で構成される下半部は浸食谷が放射状に発達している。

徳連岳山塊もほぼ同様であるが、頂部に平坦面を留めている。

眉山山塊は頂部を安山岩で構成されている。

1-1-D 青螺・黒髪山地

青螺山（599 m）、牧ノ山（553 m）、黒髪山（518 m）、腰岳（488 m）、黒岳（368 m）などで構成される山地で、主に古第三系、一部新第三系の堆積岩類の上に各種火山岩類が重なっている。

青螺山、牧ノ山および黒髪山は安山岩類、流紋岩類およびそれらの碎屑岩類で構成され、河川の下刻作用が著しく進み、急崖および急斜面にとむ山地で、青螺山北側、牧ノ山西側などには急崖が発達し、また有田ダム周辺や山内町宮野北西の乳待坊など特異な浸食地形が発達している。

黒岳も上半部は凝灰角礫岩で構成され、深い浸食谷が発達している。

腰岳は玄武岩溶岩流上面に平坦面を生じ、この上に流紋岩溶岩が重なった山地であって、北側に玄武岩流の平坦面の一部が残っている。

1-1-E 西岳山地

北西または西へ緩傾斜する新第三系上に玄武岩質の溶岩流と碎屑岩類とが重なる溶岩台地状の山地であるが、本県内の部分はこの台地の東側急斜面である。長崎県との県境には南より八天岳(707 m)、国見山(777 m)、国見岳(496 m)、石倉岳(313 m)などが連なる。こゝでも玄武岩類で構成される斜面は密で単調な等高線で表わされるが、下半の第三系の斜面はやゝ緩傾斜で浸食谷が発達している。佐代川および長崎県松浦市へ流れる志佐川上流部が玄武岩台地を深く浸食して、この斜面には乙女、西大久保などの大規模地切りが発生している。

1-1-F 大野原山地

古第三系の基盤の上に数種の火山岩類および火成碎屑岩類が重なり、頂部に斑状斜長石蹟岐岩および玄武石の溶岩による平坦面をもつ台地状山地である。前者の平坦面は標高600 mから400 mで北に傾斜し、後者の平坦面は500 mから400 mで北西に緩傾斜している。岩谷川内川、吉田川などに深く浸食され、特に前者の谷は峡谷状をしめしている。

1-1-G 虚空蔵山地

虚空蔵山(609 m)を中心とし、主に安山岩質凝灰角礫岩と溶岩の互層で構成される山地で、大半は長崎県内にあって本県内にはその約1/4が入っている。起伏量から見ると小起伏山地であるが浸食谷が発達し、特に山頂部は急崖で囲まれて屹立している。

1-II 多良火山地

下半部は安山岩質凝灰角礫岩、上半部は安山岩質溶岩を主とする成層火山で、放射状谷の発達により著しく開析されている。中川・浜川・多良川・糸岐川などの放射状谷の側面には溶岩流の断面をしめす急崖が連続し、河床には基盤の玄武岩類が露出しているところがある。基盤の玄武岩類は山地の中央部で高まる傾向をもつほか、太良町大浦附近では小起伏山地を作っている。多良火山地の安山岩質岩石の分布は大野原山地と唐泉山(III B₃の一部)とにより遮ぎられ、またこの附近では古第三系を直接被覆することもある。

1-III 丘陵

松浦川の支流徳須恵川一行合野川の谷でA・B₂地区に区分し、後者を松浦川支流の黒尾岳川および有明海側-玄海側の分水界によって3区分した。

1-III-A 上場丘陵部

通称上場台地とよばれる開析溶岩台地である。台地面を構成する玄武岩類は主として溶岩流で、その基盤は北および西では新第三系、東および南では黒雲母花崗岩と古第三系である。溶岩流の下面は古い開析準平原で、かなり起伏にとみ、ところによっては砂礫・シルト(第四系?)の厚い地層が凹所を埋めている。台地面は北西に傾斜し、台地面の最高点は唐津市竹木場北方の三角点269 m、野高山(260 m)など南東側が高く、北西端の波戸岬(37 m)、値賀崎(30 m)で低くなっている。このため台地面上の主要分水界は著しく東に偏り、面上の主な河川は北または西へ流れる。

東松浦半島に近い神集島、加部島および高島は上場台地の連続部と考えられる。

小川島、加唐島、松島は玄武岩溶岩流で構成されたメーサまたはビューット状の地形で、加唐島、松島では海食崖が発達している。馬渡島は第三系の基盤の高まりの上を玄武岩がおおって、それぞれの溶岩

流によると見られる標高 80 m と 120 m の平坦面が南東側に見出される。

1 - III - B 杵島・松浦丘陵部

第三系、または第三系と火山岩類とから成る丘陵および小起伏山地の集合で松浦川中流沿いの狭い低地がこの中に含まれる。

B₁ 松浦地区は大野岳 (424 m)、城古岳 (404 m)、大陣岳 (269 m)、岸岳 (300 m) などの小起伏山地を含む丘陵群である。大野岳、城古岳は頂部に玄武岩をのせ、城古岳では頂部に平坦面を留めている。大陣岳は粗粒玄武岩の厚い岩床が砂岩層中に貫入しているため、小起伏山地として残ったものと考えられる。岸岳はほぼ水平な厚い砂岩層で構成されるピュート状の山地で、この附近には他にも同様な小起伏山地があり、また厚い砂岩の崖を周囲に廻らせる小丘陵が相知町から厳木町にかけて発達していて、この崖を利用した相知町鶴殿の石仏群がある。第三系丘陵は南西方向に傾斜する地層の構造に従ってケスタ地形をしめすことが多く、小規模な層面地すべりが伊万里市、北波多村などに数多く見出される。

B₂ 山内・有田地区は松浦川の上流部を中心とする地域で、東に流紋岩質溶岩円頂丘を頂点とする道德山 (330 m) の小起伏山地、南に玄武岩を頂部にのせる神六山 (447 m) などの小起伏山地を伴い、西に青螺・黒髪山地、北に八幡岳山地を配して、地区全体として盆地状の性格をもつ。青螺・黒髪山地の西方の小丘陵および南側長崎県との県境をなす第三系の小起伏山地もこの地区に含めた。

B₃ 杵島地区は杵島山 (342 m)、虚空蔵山 (288 m, 塩田町)、唐泉山 (410 m) などの小起伏山地と、多久市周辺の小丘陵、武雄市および嬉野町の丘陵群を含んでいる。

杵島山は主に安山岩溶岩より成る比較的なだらかな丘陵状の山地で、西側山麓には基盤の古第三系が僅かに露出している。山地全体として西側急傾斜、東側緩傾斜のケスタ状地形をもつ。これに対してやゝ古い変質安山岩で構成される虚空蔵山 (塩田町) や唐泉山は浸食作用が進み、急斜面を伴う小谷が発達している。

武雄市武雄町北側の小起伏山地には、柏岳 (240 m) のような安山岩溶岩流ののる台地状山地も伴われている。

小城町鏡山 (135 m) の南北に長い丘陵は古第三系の上にほぼ水平な玄武岩溶岩流が重なり、一部では山頂部に平坦面を留めている。牛津川によって切離されているが、両子山塊と同様な地形、地質をもつ丘陵である。

多久市北部および南部の丘陵は古第三系のケスタ状地形をしめす丘陵であるが、多久市中央部の陣、辻山 (200 m) は讃岐岩をのせるピュート状の小丘、山崎山 (213 m) は安山岩の溶岩円頂丘と考えられる。

武雄市武雄町南の丘陵は西に傾斜する古第三系が南北方向の平行断層で寸断され、これに従って南北に長い小丘が繰返す地形であるが、一部には流紋岩、変質安山岩が分布し、急崖で囲まれる御船山は流紋岩の溶岩円頂丘の頸部を代表するものと思われる。

このほか武雄市甘久附近、塩田町下久間、同じく美野附近、嬉野町今寺北西などに小規模な段丘が見出される。

1 - VI 段 丘

脊振山地南縁、特に鳥栖市、三養基郡、神埼郡内によく発達し、既存の文献では一括されているもの、2段に区分されているもの、または高中低の3段に区分されているものなどがある。県内全域に散在する段丘の対比が完了していないので、こゝでは一括してしめしたが、県北東部の高位段丘では浸食が進み、平坦面は極めて狭くなっているため、このような部分のみを取出して傾斜区分図に表現した。

県北東部の段丘地区は朝日山(133 m)などの丘陵で2分されるので、東部を鳥栖段丘、西部を三神段丘とした。

1 - IV - A 鳥栖段丘

秋光川・大木川・安良川などの扇状地として形成された。高・中位段丘はこれらの河川の間で若干残っているだけで、大半は低位段丘と考えられる。鳥栖市街地は大木川の低位段丘上に作られている。

1 - IV - B 三神段丘

寒水川・田手川・城原川の扇状地として形成され、高位段丘はこれらの河川の間で南北に長い尾根状に残存し、林地および果樹園として利用されている。中・低位段丘面はかなり広く、低位面は水田として利用されている。いずれも現在の河川で開析され、側面に急斜面を伴っており、東脊振村田手川左岸の下石動から横田に至る急崖は特に顕著である。低位面の南縁は沖積平原面下に没する形となり境界が不明瞭になることが多い。

1 - V 低 地

本県下の主要な低地は広義の佐賀平野であるが、松浦川下流沿いから浜玉町玉島川下流へ続く松浦川下流低地、有田川沿岸と伊万里市街地を含む伊万里川下流部をあわせた有田・伊万里川低地がこの区分に含まれる。

1 - V - A 佐賀平野

有明海北岸に沿う三角洲性低地を主とする低地であるが、牛津川上流の盆地を加えて便宜上次の4地区に区分した。

A₁ 佐賀地区は筑後川、寒水川、田手川、城原川、巨勢川、嘉瀬川、晴気川、牛津川などの諸河川が作った扇状地と三角洲の複合低地である。

城原川以東の地区では扇状地地形は明瞭でなく、段丘間の浸食谷を埋める谷底低地の部分を扇状地性低地とし、この下方の平坦な低地を三角洲性低地とした。

城原川以西の地区では標高5 m附近で地表傾斜が急変し、これより山地側はやゝ傾斜を増して扇状地地形をしめす。このうち佐賀市北方の城原川と嘉瀬川には含まれる扇状地内には空中写真に明瞭に認められる開析扇状地状の地形が含まれ、これを構成する地層もよくなってしまっている点から見て、佐賀市金立町大門および久保泉町川久保附近を頂点とする古い扇状地—低位段丘—の可能性が強い。同様な段丘状地形は嘉瀬川右岸の大和町佐保附近にも見出され、嘉瀬川の作る扇状地より一段高い平坦面を作っている。佐賀市街地および牛津町の市街地は三角洲性低地内の自然堤を利用したものと考えられている。

A₂ 多久地区は牛津川中流の盆地状低地で、小丘陵を含む。この附近に古今出川の扇状地と考えられる段丘が発達している。現在の今出川は多久市東多久町羽佐間のやゝ上流で牛津川に合流するが、この附近の

今出川の扇状地地形は地形図にも明らかにしめされている。牛津川もこの附近から上流側はやゝ河道傾斜を増し、右岸側には段丘も見られるが、羽佐間附近までは感潮し、これより下流側の低地は低平である。

A₃ 白石地区は殆んど全部が三角洲性低地で、この中を蛇行する六角川は武雄市高橋附近まで感潮する。白石町堤附近や北方町樺島などでは、杵島山から切離された小丘が低地内に島状に孤立している。白石地区の海岸は佐賀地区の海岸と同様に現在も新しい三角洲が生長していて、これを利用して干拓が行われている。

A₄ 鹿島地区は塩田川による三角洲性低地と多良火山地から流下する浜川、石木津川、中川などによる扇状地とで構成されている。鹿島市街地は中川の扇状地と、一部はその背後の段丘とを利用して作られている。

1 - V - B 松浦川下流低地

浜玉町玉島川河口から松浦川河口に続く虹ノ松原の砂洲によって作られた古松浦瀉が埋め立てられた低地を主とする。鏡山西縁などに小規模な段丘が見出される。松浦川およびその支流の厳木川の谷底低地もこの地区に含まれる。

1 - V - C 有田・伊万里川低地

溺れ谷である伊万里湾の湾奥を有田川、伊万里川が埋め立てて生じた低地で、低地内に第三系で構成される小丘陵が見出される。人工的にも狭い湾口や島嶼間を閉切って干陸化した地区も多い。湾奥の周辺山地や小丘の上または周辺に洪積世の礫層が見出され、一部は段丘を形作っている。青螺・黒髪山地と西ノ岳山地には含まれる有田川中流低地もこの地区に含まれる。

大 島 恆 彦 (佐 賀 大 学)

2. 表層地質の分布とその性状等の概要

佐賀県内に見られる主な地質を古い順にあげると、次のようになる。

- I 変成岩類
- II 深成岩類
- III 第三系堆積岩類（固結堆積物）
- IV 火山岩および火成碎屑岩類
- V 第四系堆積岩類（未固結堆積物）

2 - I 変成岩類

中国地方から続く三郡変成岩類の一部と考えられ、その生成時代は古生代末とされている。東西方向の走向をもち、多久市東多久町付近では北に 30° 程度の傾斜をしめすが、北側深成岩類に接する付近では急傾斜になる。脊振山地南縁に沿い東西に長く分布するほか、福岡県境の雷山附近にルーフベンダント状に、その他花崗岩中の小さい捕獲岩として見出される。

緑色片岩と泥質片岩を主とし、石英片岩と結晶質石灰岩を伴っている。大部分は深成岩類の接触変成作用のため、緑色片岩は透輝石・角閃石・斜長石より成る縞状ホルンフェルスに、泥質片岩は紅柱石や柘榴石を伴う黒母縞状ホルンフェルスに変わっている。東多久町付近では接触変成作用の影響が少なく、結晶片岩の組織を留めていて、脊振山地の主体を成す花崗岩類の南側面を作っている。

角閃石縞状ホルンフェルスは小城町、厳木町など数ヶ所で採石されている。

2 - II 深成岩類

蛇紋岩類、斑輝岩類および花崗岩類に区分される。

蛇紋岩類

変成岩類の分布と密接な関係をもち、むしろ三郡変成岩類の一員と見てよい。ほぼ完全に蛇紋岩化したもの、多量のかんらん石残晶、或いは頑火輝石の残晶を留めるものなどがある。斑輝岩類の接触変成作用を受けて輝石類の再結晶したものもある。

斑輝岩類

多数の小岩体として、多久市北多久町岸川付近では変成岩中に入入しているほか、三瀬峠附近の花崗岩中にも見出される。岩漿分化作用の結果と考えられる超塩基性～酸性の一連の岩相があり、コートランド岩、かんらん石斑輝岩、斑輝岩、紫蘇輝石斑輝岩、ウラル石斑輝岩、角閃石斑輝岩、石英閃緑岩などが見出される多久市相浦の天然記念物ナポレオン石（球状閃緑岩）は、岩漿が斑輝岩（球類の殻部）と石英閃緑岩（基質）とに分化した結果と考えられる。

花崗岩類

花崗閃緑岩類（神埼花崗閃緑岩および相知花崗閃緑岩）、黒雲母花崗岩（東松浦花崗岩）、両雲母花崗岩類（三瀬花崗岩および佐賀花崗岩）に区分され、放射性同位元素による年代測定ではいずれも中生代白亜紀中頃をしめているが、野外の産状から古い順に神埼、東松浦、相知、三瀬、佐賀とならぶとされている。花崗岩体の伸長方向や神埼花崗閃緑岩の顕著な鉱物の配列面は東西性で、変成岩類の構造とほぼ平行している。花崗岩類は脊振山地の大半と上場丘陵部東部の基盤を作り、その露出面積は佐賀県下の25%を

占める。風化帯の深度は一般に甚だ深いが、両雲母花崗岩類ではやゝ浅い傾向がある。風化帯は土木工事の盛土用に脊振山地周辺各所で採掘されている。

2 - III 第三系堆積岩類（固結堆積物）

相知層群、杵島層群（いずれも漸新統）および佐世保層群（中新統）に区分され、相知および佐世保層群が挾炭層で、それぞれ唐津炭田、佐世保炭田（の一部）として稼行されたが、近年すべて閉山された。杵島層群の最下部杵島層とその上位の佐里砂岩層を古第三系砂岩頁岩互層、最上位の畑津頁岩層を頁岩層相浦層を除く上位の佐世保層群を一括して新第三系砂岩頁岩互層として表現し、その他は砂岩層として図示した。

相知層群と杵島層群とは平行不整合の関係にあると考えられ、相知層群は脊振山地に対し傾斜不整合の形で堆積していて、その一部は多久市東部の標高479mの尾根上に、変成岩および花崗岩を不整合におおひ小露頭として見出される。相知、杵島層群は南西側で次第にその層原を大にする傾向がある。佐世保層群は上場丘陵部の北西側基盤を作り、これより西岳山地にかけて分布し、堆積盆地は前記2層群とはかなり違っている。

北西方向の断層系が発達し、より古いとされる東西系断層も加わって寸断されているが、相知、杵島層群は緩やかな向斜・背斜を繰返しつゝ、南西方向に傾いている形をとる。佐世保層群は北西系の断層に切られているが、全体として北西ないし西へ傾斜している。

相知層群中の芳谷層上部層の厚いアーコース質塊状砂岩層および杵島層群行合野砂岩層の厚い海緑石含有塊状砂岩層は岸岳およびその附近のピュート地形やケスタ地形を形作り、また石材として切出されている。特に後者は多久市、北波多村などで盛に稼行されている。砂岩頁岩互層および頁岩層地域には地すべり地が多く、地すべりにおける地質的要因も見のがせない。

2 - IV 火山岩および火成碎屑岩類

火山岩および火成碎屑岩類は多良火山地や、上場丘陵部および西岳山地の溶岩台地を作るほか、脊振山地および低地をのぞく県内西部に広く分布し、その合計面積は県下の21%をしめる。これらの火山岩類は多岐にわたり、それらの相互関係や地質時代は必ずしも明らかでなく、いくつかの総括的報告の間にはかなりの相違が見られる。こゝでは溶岩台地を作る玄武岩類（松浦-西岳玄武岩類）の活動時期を鮮新-更新世（新第三紀末から第四紀洪積世初めにかけての時代）として、これとの前後関係を中心として述べることにする。

肥前粗粒玄武岩類

典型的なオフィチック組織の粗粒岩相をもつほか、石英安山岩質の酸性岩相をも伴う（後者だけの独立岩体もある）岩床ないし餅盤状岩体で、地表に見出されるもののほか、多久市西多久町、武雄市若木町、伊万里市桃川および大川野などに地下の大岩体として発見されている。これらに貫入された第三系（相知杵島層群および佐世保層群相浦層の各層）は軽度の接触変成作用をうけて硬化している。

眉山で安山岩類に被覆されるほか、他の火山岩類との関係は明らかでないが、東西断層系に切られることなどから、中新世後期の活動と考えられている。

讚岐岩類

鬼ヶ鼻山地に広く分布し、黒髪山西部にも流紋岩類の下に見出される。鬼ヶ鼻山では讚岐岩の上位に松

浦玄武岩類が重なっているが、下位にも古期玄武岩類とされる玄武岩類が伴われる。本地区の讃岐岩類は瀬戸内海に沿う中新世後期の讃岐岩類の活動に対比されている。大野原山地の斑状斜長石讃岐岩はその下に砂礫層、玄武岩溶岩流および凝灰角礫岩層を伴い、この玄武岩類が松浦－西岳玄武岩類に対比されるとすれば、上述の讃岐岩類とは別の更新世の活動と考えられよう。

多久市南多久では本岩を対象とする採石場が多い。

玄武岩類

八幡岳および鬼ヶ鼻山地、上場丘陵部および杵島・松浦丘陵部中の小起伏山地などに分布するものは、主として溶岩流で、最下位の溶岩流の底部や下位の溶岩流の間には砂礫層を伴うことが多い。西岳山地や多良火山地基盤の小起伏山地などに分布するものは、凝灰角礫岩や集塊岩などの火成碎屑岩類を伴っている。特に後者では碎屑岩類がいくつかの小規模な噴石丘構造をしめすことがあり、これらは松浦－西岳玄武岩類より新しい時代（更新世）のものと考えられている。

加唐島、松島、馬渡島には粗面岩を主とするアルカリ玄武岩類が分布している。

松浦－西岳玄武岩類は多久市東多久、上場丘陵部、西岳山地で採石され、また太良町大浦附近にも玄武岩を対象とする採石が盛んである。

流紋岩類および同質凝灰角礫岩類

主要な分布地域は、黒髪山を中心とする青螺・黒髪山地で、讃岐岩および玄武岩を覆っていて、更新世の活動と考えられている。黒髪山の下半部は熔結凝灰岩とされている。武雄市武雄町北方などでは溶岩円頂丘を作る小岩体が多数見出されるほか、岩脈状に各地に見出される。伊万里市腰岳頂部の流紋岩溶岩流の底部には黒曜岩を、また黒髪山東西両側の溶岩流には真珠岩相を伴い、後者は軽量骨材原料として採石されている。また一部陶石化された部分は陶石として採掘されている。

小規模な凝灰角礫岩、層灰岩または溶岩としては安山岩類、玄武岩類、讃岐岩類などの間に挟まれて、県内各地で見出されている。

変質安山岩類

塩田町虚空蔵山、唐泉山を中心分布し、一部は武雄市北部にも見出される。両輝石・安山岩から変質した灰緑色岩で、塩田石として石材に利用されている。有色鉱物の緑泥石化、斜長石の方解石化が顕著である。塩田町塩吹附近では第三系砂岩に強い接触変成作用を与えていて、この上にのる多良岳或いは杵島山の安山岩類とは、産状や地質時代をかなり異にするものと思われる。

安山岩類および同質凝灰角礫岩類

多良火山地、虚空蔵山地、青螺山および杵島山などに分布する。角閃石粗面安山岩、両輝石安山岩、角閃石安山岩など各種の岩型が見出されている。

多良火山地では下より凝灰角礫岩層、両輝石安山岩質溶岩流、含角閃石両輝石安山岩質溶岩流、角閃石安山岩質溶岩流の順に重なる層状構造が考えられ、台地状山地を作る下位の2層を豊肥火山活動（更新世初～中期）、山体上部を作る上位の2層を山陰系火山活動（更新世中～後期）の2期に区分されている。

杵島山、青螺山および鬼ヶ鼻山地の安山岩類は充分な資料はないが、地質構造、岩質などから、多良岳火山地の下位の2層に対比できよう。

八幡岳山地の眉山および多久市中央部の山崎山を作るものは山崎山粗面安山岩とよばれ、眉山では肥前粗粒玄武岩類の酸性岩相を、山崎山では讃岐岩を覆う関係が知られているが、松浦玄武岩類との関係は不明である。これまで比較的古いものと考えられてきた。

虚空蔵山地を構成する安山岩質岩石は、長崎県側の資料によれば、この上位に玄武岩類がのるところから見ると、松浦－西岳玄武岩類とほぼ同時期とも考えられ、また多良火山地の下位の2層に対比されると

すれば、この上にある大野原台地面を作る玄武岩類が新しい新期玄武岩類と考えられることになる。

2 - V 第四系堆積岩類（未固結堆積物）

洪積層

地表で見られる洪積層は段丘を構成する堆積物で、背後山地の硬岩の礫および砂を主とする砂礫層である。鳥栖、三神段丘では花崗岩源の砂礫層を主とするが、高位段丘を作る砂礫層中の礫は所謂くされ礫である。この地区の段丘の高・中位面および脊振山地南縁から多久低地に見られる段丘面にはうすい火山灰層をのせている。

佐賀平野では有明粘土層の下に、島原海湾層で始まる厚い砂泥互層が広がっていて建築物の基礎地盤、深層地下水の供給源として利用されている。

火山岩類の底或いは中間に挟まれる砂礫層やシルト層は鮮新世から洪積世の時代のもが含まれているが、全体としての連続性は少ない。

沖積層

泥を主とする地層は、佐賀平野の三角洲性低地の表層を作り、有明粘土層の名で知られている。貫入試験のN値が殆んど0の軟弱な地層であるが、中間に砂層を挟むことがある。かなり厚さの変化があり、等層厚線図を描くと、現在の有明海底のみおにつながる谷状地形があらわれることから、洪積層中に刻まれた河谷を埋めたものと考えられている。松浦川下流低地ではこの層はうすく、全体としては砂にとむ堆積物である。

砂を主とする地層は扇状地性低地と砂洲を構成している。扇状地性低地の堆積物は背後山地から供給された礫に富むものが多い。虹ノ松原など唐津湾岸の砂洲は主に花崗岩源のよく淘汰された砂より成り、白砂青松の海浜風景を構成している。

大 島 恆 彦 （ 佐 賀 大 学 ）

(2. 表層地質の分布とその性状等の概要の別表)

年代(百万年単位)	地質時代		堆積岩類	火成岩類	
0.01 1.5 ~ 3.5 7 26 37 65	新 紀	沖積世	有明粘土層		
		更新世 (洪積世)	洪積層	多良岳安山岩類(上部) 新期玄武岩類 多良岳安山岩類(下部) 有田流紋岩類	
		鮮新-更新世		松浦-西岳玄武岩類	
		鮮新世	砂礫層	山崎山粗面安山岩 変質安山岩類	
	生 代	第 三	中新世	佐世保層群 { 福井層層 世知原層層 袖木層層 中里層層 相浦層層	讃岐岩類 肥前粗粒玄武岩類
			漸新世	杵島層群 { 畑津頁岩層 畑津砂岩層 行合野砂岩層 伏里砂岩層 杵島層 相知層群 { 芳谷層 巖木層	
			始新世 暁新世		
	136 225	中 生 代	白亜紀		佐賀花崗岩 三瀬 " 相知花崗閃緑岩 東松浦巻崗岩 神埼花崗閃緑岩 北多久はんれい岩類
			ジュラ紀		
			三疊紀	(広区域変成作用) 変成岩類の原岩	蛇紋岩類
	古生代				

3. 土壌統群の分布とその性状および生産力可能性等の概要

佐賀県の土壌は、大土壌群 9、土壌統群 26 に分類され、その内訳は次のとおりである。

土 壌 統 群 一 覧 表

大 土 壌 群	土 壌 統 群
岩 石 地	岩 石 地
未 熟 土	未 熟 土 壤 残 積 性 未 熟 土 壤 砂 丘 未 熟 土 壤
黒 ボ ク 土	黒 ボ ク 土 壤 淡 色 黒 ボ ク 土 壤
褐 色 森 林 土	乾 性 褐 色 森 林 土 壤 " (黄 褐 系) " (赤 褐 系) 褐 色 森 林 土 壤 " (黄 褐 系) " (赤 褐 系) 湿 性 褐 色 森 林 土 壤
赤 黄 色 土	赤 色 土 壤 黄 色 土 壤 暗 赤 色 土 壤
褐 色 低 地 土	褐 色 低 地 土 壤 粗 粒 褐 色 低 地 土 壤
灰 色 低 地 土	細 粒 灰 色 低 地 土 壤 灰 色 低 地 土 壤 粗 粒 灰 色 低 地 土 壤
グ ラ イ 土	細 粒 グ ラ イ 土 壤 グ ラ イ 土 壤 粗 粒 グ ラ イ 土 壤
泥 炭 土	低 地 泥 炭 土 壤 黒 泥 土 壤

佐賀県の土壌の種類とその分布状況は、地形、地質、気象条件などとの関連が認められる。したがって、ここでは山地、丘陵地、低地などの地形を主要因として区分された地域区分（土地利用可能性分級図の図示）ごとに土壌統群の分布とその性状、生産力等について述べる。

3 - I 山地の地壌

佐賀県の山地は、標高 1,055 m の背振山を頂点として県の北部を東西に連なり福岡県に接する背振山地と、県の南西部に位置して長崎県に接する多良山地がおもなもので、他に中起伏山地の八幡岳山地や国見、黒髪山地がある。

背振山地の地質は花崗岩が主体であるが、部分的には天山山腹、山麓その他に変成岩が分布している。また、八幡岳山地は山地上部が玄武岩で中腹以下は第三紀層からなる。

多良山地は、安山岩を主とし、一部に玄武岩の地帯もある。国見、黒髪山地は、山地上部が玄武岩、安山岩、流紋岩などでおおわれ中腹以下は第三紀層が分布している。

以上のような地形、地質がこれらの地域の土壌の生成に大きく影響している。

3.1.1. 背振・八幡山地

A 背振山地

この地域は、標高 1,055 m の背振山を頂点として東に九千部山、西に金山、雷山、羽金山、浮岳、南西部に天山、作礼山などを連ねた県下ではもっとも広い山地である。

この地域の林野土壌は、ほとんど花崗岩類を母材とするもので、褐色森林土壌（黄褐色系）が最も広く分布し、乾性褐色森林土壌（黄褐色系）、湿性褐色森林土壌がこれに次ぎ、その他、乾性褐色・褐色森林土壌（赤褐色系）、乾性褐色・褐色森林土壌、未熟土および黒色土壌が出現する。

褐色森林土壌（黄褐色系）は、花崗岩類地域の山腹部に広く出現する。しかし、この出現傾向を花崗岩の種類別に見ると、山地北部の神埼花崗閃緑岩および南部の相知花崗閃緑岩地帯では、山頂部までこの土壌が出現し、逆に両雲母佐賀花崗岩地帯では、後述の乾性土壌の出現率が多くなる。そして地域西部および東部の東松浦花崗岩地帯は、その中間的な出現傾向がみられるが、これは、土壌中の粘土含有率の相違による保水力、粒子結合力に関係するものと思われる。この土壌は、一般に有効土層は深く、軟かで、生産力は中庸以上である。

乾性褐色森林土壌（黄褐色系）は、前記土壌に接して、山腹上部の緩斜面、陵線にほぼ帯状に出現し、一般に土層は浅く、生産力は劣る。

乾性褐色および褐色森林土壌は、天山および雷山附近を占める緑簾石英角閃片岩層等の変成岩地域で、前者は山頂部にみられるが一般に風衝地が多く、また、土壌はツマリ型で生産力は劣り、後者は山腹部に出現し、角礫を混入して有効土層は深く、生産力はかなり大きい。

乾性褐色および褐色森林土壌（赤褐色系）は、山地南部山麓に、前記変成岩以外の変成岩類および玄武岩を母材として、前者は稜線部、後者は山腹部に出現するが、生産力は中庸かやや劣る。

湿性褐色森林土壌は、主に神埼花崗閃緑岩地域を主体に、山脚部に広く出現し、微砂壤土で腐植の含量も多く、生産力は大きい。

黒ボク土壌は東背振村の北端や、作礼山北東部に点在するが、A層は一般に緻密で生産力はやや劣る。

また、佐賀花崗岩地域の稜線には残積性未熟土壌が小面積出現し、南麓の旧炭鉱地帯にはボタ山が点在する。農地としては、山地縁辺部の標高約 300 m 以下の山麓沿いに樹園地（温州みかん）が帯状に分布し、松浦川、玉島川、嘉瀬川、田手川、寒水川その他の河川沿いに発達した谷に沿って分枝状に水田が分布している。このような樹園地や水田の分布がおのずから土壌の分布を規定していると考えられる。

背振山地の農地でもっとも広く分布する土壌統群は、黄色土壌である。その他暗赤色土壌、褐色

低地土壌、粗粒褐色低地土壌、灰色低地土壌、粗粒灰色低地土壌、グライ土壌などは小面積ずつ分布している。

黄色土壌は、東松浦郡七山村、浜玉町および唐津市の東部に連続して一団地をなすとともに、相知町、厳木町、多久市に点在し、さらに背振山地が佐賀平野に接する山麓部の標高約250m以下の所を東西に長く帯状に分布している。

山地西部の土壌は、花崗岩の風化物を母材とする残積性の黄色土壌で、腐植層がなく表層、下層ともに壤質の場合と、表層、下層ともに粘質の場合に大別され、これらがこの地域の黄色土壌の大半を占め、両者の分布割合はおおよそ6:4である。他に分布は少ないが、浜玉町と七山村の柳瀬附近に砂質の黄褐色土壌があり、浜玉町鏡山の東部斜面には強粘質の黄褐色土壌が分布している。厳木町以東の背振山地南麓では変成岩、花崗岩、洪積層など地質構造に変化があるためか、土性は砂質、壤質、粘質など複雑である。生産力は土性が粘質よりも粗粒ほど低い傾向がある。

なお、多久市、小城町には玄武岩に由来する強粘質の暗赤色土壌があり、樹園地として利用され、生産力は中庸である。

山間地の谷底低地や水利の便が得られる傾斜地には水田が分布し、グライ土壌、灰色低地土壌、褐色低地土壌、黄色土壌などがある。これらの土壌は、花崗岩の風化物を母材とするため一般に粗粒の石英砂を含み、土性は砂壤土ないし砂土の場合が多い。なお、下層に花崗岩質の砂礫層が存在する場合もある。ただし、局所的な地形条件の相違により細粒質の土壌が分布することもある。一般に中粒ないし粗粒質のため保肥力が弱く、天然養分含量にとほしく、漏水型の秋落水田が多くて生産力は低い。

山間地に分布するグライ土壌は普通グライ土壌に比して強グライ土壌が多く、この土壌は沼沢地的な凹地の排水不良田であり、全層または作土直下から還元層となっている。裏作ができない一毛作田であり農作業は不便で、また、堆きゆう肥などの施用にも還元過多にならないように注意を要する土壌である。生産力はやや低い。

B 八幡山地

八幡岳、女山、杉岳、鬼ヶ鼻山、両子山などの玄武岩または安山岩の火成岩山地が第三紀層を貫入して山地を形成しており、したがって分布する土壌は玄武岩、安山岩、第三紀層の風化物およびそれらの沖積物を母材とする土壌である。

この地域の林野土壌は、山麓丘陵部に乾性褐色および褐色森林土壌（黄褐系）がみられ、その上部に乾性褐色および褐色森林土壌（赤褐系）とごく小面積の乾性褐色および褐色森林土壌が出現し、また、全域に湿性褐色森林土壌が分布するほか、旧炭鉱周辺には未熟土（ボタ山）が点在する。

乾性褐色および褐色森林土壌（黄褐系）は、山麓丘陵地の第三紀層を基岩として、前者は短斜面に、後者は稜線に分布し、一般に腐植の浸透は浅く、生産力は前者は中庸、後者は劣る。乾性褐色および褐色森林土壌（赤褐系）は玄武岩を母材とし、前者は山腹部、後者は台状地に出現し、いずれも埴質、ツマリ型で生産力は中庸かやや劣る。乾性褐色および褐色森林土壌は、山頂部の安山岩類および讃岐岩を母材とし、いずれもややツマリ型で生産力は中庸かやや劣る。湿性褐色森林土壌は、全地域の沢筋にごく小面積ずつ出現し、生産力は良好である。多久市周辺には未熟土としてボタ山が点在する。

農地では黄色土壌、暗赤色土壌が大半を占め、牛津川の上流などごく一部の沖積地に灰色低地土壌や細粒灰色低地土壌があり、鬼ヶ鼻山の東部に淡色黒ボク土壌がある。

黄色土壌は土性が強粘質、粘質、壤質など種々のものが分布し、下層に礫層が存在する場合があ

る。

暗赤色土壌は、地域東部の両子山および鬼ヶ鼻山の北斜面に分布し玄武岩に由来する残積性の赤褐色強粘質土壌である。樹園地（温州みかん）として利用され、生産力はほぼ中庸である。腐植層はなく、強酸性で磷酸固定力は1,500程度で自然肥沃度、養分含量はやや低いが、有効土層は深く、保肥力は比較的大きく、土壌管理を適切におこなえば良質なみかんが生産できる土壌である。

なお、八幡岳、女山などの中腹には暗赤色土壌の水田が点在し、保肥力が大で、珪酸、鉄、塩基成分の含有量もかなり多く、第三紀層の黄色土壌よりも水稻の生産力は高く、この土壌では秋落現象はみられない。

淡色黒ボク土壌は、大町町不動寺附近に分布し、表層が火山灰で被覆された残積土壌で、かなり膨軟で保水力は良い。下層土は、玄武岩質の強粘質土壌である。

3.1.2 多良山地

この地域の林野は、玄武岩類台地、第三紀層丘陵地および安山岩類の山岳地からなり、褐色森林土壌が最も広く分布し、乾性および湿性褐色森林土壌がこれに次ぎ、乾性褐出・褐色森林土壌（赤褐系）、乾性褐色・褐色森林土壌（黄褐系）、黒ボク土壌および岩石地が小面積に出現する。

褐色および乾性褐色森林土壌は、各種安山岩類および長石質讃岐岩地域で、前者は山腹部に広く分布し、スギ、ヒノキ造林地および広葉樹林が多く、一般に有効土層は深く、角礫を適当に混入し、生産力はかなり大きい。後者は、前記土壌に接して山腹上部緩斜面や稜線に出現し、土壌は、ツマリ型が多く、生産力はやや劣る。

褐色および乾性褐色森林土壌（赤褐系）は、玄武岩および一部の安山岩類地域にみられるが、土壌はいずれもツマリ型で、生産力は、前者は中庸、後者はやや劣る。湿性褐色森林土壌は、降水量の多い奥地の山脚部、沢筋に帯状に出現し、スギ造林地が多く、生産力は大きい。黒ボク土壌は、鹿島市奥山上部の国有林に小団地的に出現する。

嬉野町の山麓部には第三紀層を基岩とする褐色および乾性褐色森林土壌（黄褐系）が小面積分布するが、生産力はかなり劣る。多良、経ヶ岳山頂附近には岩石地が点在する。

農地では黄色土壌がもっとも広く分布し、他には暗赤色土壌、赤色土壌、淡色黒ボク土壌、褐色低地土壌、灰色低地土壌、細粒グライ土壌などが小面積ずつ分布している。

黄色土壌は、嬉野町、鹿島市および太良町の北東部に分布している。安山岩の風化物を母材とするものが大半を占めるが、嬉野町では第三紀層に由来するものもあり、ともに強粘質黄褐色土壌である。多良山地の標高約300m以下の黄色土壌は、大半が温州みかんの樹園地であるが、山腹傾斜地水田もこの土壌に属することが多い。また、嬉野町井手川内その他では茶園として利用されている。腐植層はなく土壌有機物にとほしいが、土性は強粘質で保肥力は中庸、磷酸固定力は中～小である。有効土層は一般に深い、朽礫または未風化礫層によって植物根の伸長を妨げられていることもある。隙間の土性は、強粘質で深耕すれば土層状態はかなり改善される。この地域の黄色土壌の生産力はほぼ中庸である。

暗赤色土壌は、太良町大浦附近に分布し、玄武岩に由来する残積性の暗赤色強粘質土壌である。下層土が緻密で、通気透水性が悪く、自然状態では植物根の伸長が抑制され生産力はやや低いが、深耕や土壌改良資材の施用によって改良すれば生産力は中庸となる。

赤色土壌は、鹿島市上古枝附近に分布し、性状は暗赤色土壌に類似している。

褐色低地土壌は鹿島川、多良川、糸岐川などの谷間の緩傾斜地にあり排水は良く土性は強粘質で下層に礫層を有するものと有しないものに大別される。水田として利用され生産力はほぼ中庸である。

このほか分布は少ないが灰色低地土壌としては、多良川下流低地に細粒質の灰褐色土壌がある。グラ

イ土壌としては細粒質の強グライ土壌が鹿島市東塩屋、江福、太良町伊福、針牟田、田古里、牟田などの有明海に面する低地に点在している。一毛作田で生産力はやや低い。

淡色黒ボク土壌は太良町粒露川、牛尾呂、中畑、嬉野町俵坂、大野原などに分布し、表層は5～10%の腐植を含み、表土の厚さは比較的厚く20～30 cm程度で膨軟粗しようである。磷酸固定力は中～大で、下層土は強粘質の黄褐色土壌で土層の塩基状態はやや不良であり生産力は低い。主に草地や畑地、樹園地(温州みかん)として利用されているが、嬉野町俵坂、大野原などでは茶園である。

3.1.3 国見・黒髪山地

この地域は、山地上部は玄武岩でおおわれ、中腹以下が第三紀層からなる国見山地と流紋岩、安山岩からなる黒髪山、牧山などの中起伏山地である。

この地域の林野土壌は、褐色・乾性褐色森林土壌(黄褐色系)、褐色・乾性褐色森林土壌(赤褐色系)、褐色・乾性褐色森林土壌、湿性褐色森林土壌、黒ボク土壌および岩石地が局地的に出現する。

褐色および乾性褐色森林土壌(黄褐色系)は、第三紀層および流紋岩地帯に分布するが、前者は第三紀層の風化物を母材とする丘陵地帯の中腹部、後者はその稜線部と流紋岩地帯のほぼ全域に出現し、その生産力は前者は中庸、後者はかなり劣る。褐色および乾性褐色森林土壌(赤褐色系)は国見山系および腰岳の玄武岩を母材とし、前者は傾斜地に、後者は凸地形に出現するが、土壌は埴質で、その生産力は前者は中庸、後者は劣る。この乾性土壌には赤色土、適潤性土壌には暗赤色土壌としての性格が強いものが局所的に出現する。

褐色および乾性褐色森林土壌は、黒髪山の安山岩類地帯で、前者は山腹部、後者は稜線部に出現するが、その生産力は前者はやや大きく、後者は風衝地が多くて劣る。

湿性褐色森林土壌は、山脚部～沢筋に小面積ずつ出現し、生産力は一般に良好である。

黒ボク土壌は国見山系の台地状地形に極く小面積出現する。また、流紋岩地帯では残積性未熟土が稜線から中腹部まで分布することがあり、岩石地も点在する。

農地には黄色土壌、暗赤色土壌、淡色黒ボク土壌、褐色低地土壌が分布し、黄色土壌は中腹以下に多く、水田および樹園地(温州みかん)として利用されている。暗赤色土壌は黄色土壌よりも一般に高所に分布し、おもに樹園地(温州みかん)となっている。

黄色土壌は、玄武岩、安山岩、第三紀層など地質母材を異にするが、土性は一般に強粘質、粘質である。国見山地の水田土壌は、ほとんど黄褐色強粘質土壌であり、さらにこの土壌の特徴として礫層が深さ30 cm以内から出現する場合が多い。ただし、残積的な傾向があって、礫間の土性は微粒質であり、保肥力は中庸である。したがって、いわゆる河川沖積地の礫層土壌でみられるような強い養分の溶脱はなく、生産力は中庸である。

暗赤色土壌は、玄武岩を母材とする残積性の強粘質土壌であり、黄色土壌に隣接して国見山地や腰岳中腹に分布している。土層は厚いが下層土が緻密で物理性が悪く、生産力はやや低い。

淡色黒ボク土壌は、国見山地南部のごく一部に分布し、表層は淡黒色の火山灰土壌で下層は玄武岩質の黄褐色粘質土壌である。

褐色低地土壌は、主として有田川、伊万里川によって開析された谷底低地の緩傾斜地に分布し水田として利用されている。土性は強粘質、粘質、壤質など種々あり、下層土に礫層を有する地帯もある。この種の礫層土壌は伊万里川支流の小石原などに分布する。この土壌統群の生産力は中～小で、土性が粗粒ほど、また、礫層が浅くなるほど生産力は低い。

3-2 丘陵地・段丘地の土壤

3.2.1 松浦杵島丘陵地

本地域を地形、地質、立地条件から北部丘陵地（俗称上場台地を主とする地域）と中南部丘陵地に二分した。北部丘陵地は地質としては、地域東部の花崗岩と丘陵地域縁辺低地部のわずかな地帯に第三紀層や沖積層があるが、この地域全体としては玄武岩でおおわれた台地状の低丘陵地として特徴づけることができる。標高は200m程度で山地がなく、水源にとほしく、県内ではもっとも干ばつを受ける地域である。

これに対して中南部丘陵地域は地質がほとんど第三紀層であることと、地形的には低丘陵地の中に大野岳、城古岳、大陣岳、神六山など標高400m程度の中起伏山地が点在するために前述の北部丘陵地よりも地形的に変化があり、さらに地域周辺が背振・八幡山地、国見・黒髪山地、多良山地などで大きく囲まれている、三方が海に面する北部丘陵地とは異なった立地条件にある。

A 北部丘陵地

この地域の林野は玄武岩、花崗岩および第三紀層の3地帯に区分することができる。土壤は褐色・乾性褐色森林土壤（赤褐系）、褐色・乾性褐色森林土壤（黄褐系）および一部、湿性褐色森林土壤が出現する。

褐色および乾性褐色森林土壤（赤褐系）は、玄武岩地帯で、前者は凹地形に、後者は凸地形に出現するが、いずれも埴質で腐植の含有は少なく、生産力は前者中程度、後者はかなり劣る。

褐色および乾性褐色森林土壤（黄褐系）は、花崗岩および第三紀層地帯で、前者は中腹部、後者は稜線部に出現し、その生産力はそれぞれ中庸およびかなり劣る。

湿性褐色森林土壤は、主に有浦川流域の花崗岩地帯および行合野砂岩地帯の山脚～沢筋に出現し、有効土層は深くスギの成長は良好で、生産力はかなり高い。

農地の土壤は玄武岩の風化物を母材とする土壤がもっとも広く分布し、代表的なものでは暗赤色土壤、赤色土壤、黄色土壤であり、土性はいずれも埴土、重埴土の強粘質土壤である。腐植層がなく、表土の腐植含量は3%内外で下層土の土性は微粒質で構造が緻密なため通気透水性が悪く、保水力が小さい。鉍質酸性土壤に属し土壤改良をおこなわなければ生産力はやや低い。

前述の玄武岩に由来する黄色土壤のほかに地域東部の唐津市鬼塚、佐志、相賀などには花崗岩に由来する中粒質の黄色土壤が分布し、また、この土壤には下層が礫層からなる秋落性の水田があり、生産力が低い。

灰色低地土壤としては、玄武岩に由来する沖積性の灰褐色強粘質土壤が鎮西町の谷底低地にあり、また、灰色強粘質土壤が玄海町植賀川内、唐津市熊の峰附近の谷底低地に分布し、生産力は中庸である。唐津市大良、玄海町有浦川の中流の長倉、犬吠、鎮西町河内附近の花崗岩質丘陵地の谷底低地には粗粒灰色低地土壤が分布し、保肥力が弱く、養分の溶脱が大きく、水稻は秋落的傾向があって生産力は低い。

なお、グライ土壤としては細粒質強グライ土壤が鎮西町名護屋、玄海町有浦その他の沿岸排水不良地や玄武岩台地凹部に点在している。また、花崗岩地帯の同様な地形面には壤質ないし砂質の強グライ土壤が点在し、生産力は一般に低い。

B 中南部丘陵地

この地域の林野は第三紀層の丘陵地帯と杵島山、虚空蔵山および唐泉山一帯の安山岩類、流紋岩の山塊に分けることができる。土壤は褐色・乾性褐色森林土壤（黄褐系）、褐色・乾性褐色森林土壤（赤褐系）、褐色・乾性褐色森林土壤、湿性褐色森林土壤および局部的に未熟土と岩石地が出現する。

褐色および乾性褐色森林土壌（黄褐色系）は第三紀層および流紋岩を母材とし、前者は山腹部、後者は稜線部に出現し、その生産力はそれぞれ中庸およびやや劣る。

赤褐色系は玄武岩類および古期両輝石安山岩を基岩として、適潤性土壌は中腹部、乾性土壌は稜線部に出現し、生産力は一般に低い。

褐色および乾性褐色森林土壌は安山岩類を母材とするもので、前者は中腹部、後者は稜線部に出現し、生産力は中庸およびやや劣る。

湿性褐色森林土壌は全地域の沢筋に出現し、一部過湿地も点在するが、一般に生産力はやや高い。未熟土は厳木町および相知町などでボタ山として存在し、また、岩石地は流紋岩の露出地となっている。

農地の土壌は暗赤色土壌、黄色土壌、褐色低地土壌、灰色低地土壌、細粒灰色低地土壌、細粒グライ土壌などがある。黄色土壌がもっとも広く分布し、次に褐色低地土壌と灰色低地土壌が同程度の面積を占め、分布が少ないのは細粒灰色低地土壌、細粒グライ土壌および暗赤色土壌である。

黄色土壌は本地域の丘陵傾斜地全般にわたって分布し、母材は第三紀層が主体である。なお、地域東部の杵島山、虚空蔵山附近には安山岩に由来する強粘質の黄色土壌があり、生産力は中庸である。第三紀層を母材とする黄色土壌は土性が壤質、粘質、強粘質などであり、水田では粗粒質に近いほど秋落傾向が強く、生産力が低い。

なお、第三紀層を母材とする黄色土壌は強粘質の場合でも安山岩、玄武岩に由来する土壌に比べて生産力がやや低い。

褐色低地土壌は丘陵地下腹部の河岸段丘地などの緩傾斜地に分布し、そのおもなものは伊万里市南波多町、大川町、杵島郡山内町にあって水田として利用されている。土性は強粘質、粘質で地形的にも地下水の影響を受けることがなく排水は良好で、生産力は中庸である。山内町の一部などに礫層が浅く出現する土壌があり、生産力は低い。

灰色低地土壌は松浦川上流の武雄市武内町、六角川上流の武雄市東川登町および塩田川上流の嬉野町などの谷底低地に分布し、水田として利用されている。土性は粘質～壤質の河成沖積土壌で、自然肥沃度および土壌生産力は中庸である。嬉野町吉田、武雄市東川登その他では下層に礫層が存在する場合があります。養分の溶脱がはげしく、秋落傾向を示す水田が含まれ、生産力は低い。

細粒灰色低地土壌は東松浦郡北波多村、伊万里市大川野の平坦低地部に分布している。土性は表土、下層土とも埴土～重埴土で作土下の土層が灰色を呈する沖積性の灰色強粘質土壌である。保肥力が大きく、土壌養分にも恵まれており、水稻の生産力は高い。ただし、通気透水性が悪く、裏作などの畑作物では湿害を受ける危険性が多い。

細粒グライ土壌は伊万里湾沿岸低地に小面積分布し、土性は強粘質で通気透水性が小さく、深さ50 cm程度でグライ層が出現し、排水不良な土壌である。自然肥沃度は高いが養分含量は中庸である。土壌の還元化により水稻の根系障害を受ける恐れがあり、また、増冠水等による災害を受けることが多い。生産力は中庸である。

暗赤色土壌は伊万里市の今岳、大平山、大野岳など玄武岩の中起伏山地に小面積あて点在し、樹園地（温州みかん）となっている。玄武岩の風化物を母材とする残積性の土壌で、腐植層はなく、表土、下層土ともに強粘質の暗赤色土壌である。特に、下層土の組織構造は緻密で通気透水性は不良である。深耕による土層改良や酸性改良、有機物の増施などをおこなえば、生産力は必ずしも低くない土壌である。

3.2.2 三養基段丘地

この地域の林野土壌は、旧期沖積層と一部変成岩を母材に、褐色および乾性褐色森林土壌（赤褐色）が出現するが、高位段丘地では赤色土としての性格が強くて、土層は一般に浅く、ツマリ型で生産力は劣る。

花崗岩を母材として、褐色および乾性褐色森林土壌が出現するが、A層の発達が悪く、生産力は劣る。

農地の土壌には赤色土壌、黄色土壌、粗粒灰色低地土壌、灰色低地土壌がある。沖積段丘上に赤色土壌や黄色土壌が分布し、主として温州みかんが栽培されている。また、背振山地に源を発する河川によって開折された谷沿い低地には壤質、粘質の灰色低地土壌や粗粒灰色低地土壌があって水田となっている。

赤色土壌は洪積層に由来する強粘質土壌で腐植層はない。一般に礫層が少なく、有効土層はかなり厚いが、土壌養分にとぼしく生産力は低い。

また、下層土の土色が赤色土壌と異なるほかはまったく性状が同様な黄色土壌が分布し、ごく一部には花崗岩を母材とする砂質、壤質の黄色土壌もある。

粗粒灰色低地土壌は、生産力が低く、中粒質灰色低地土壌では、ほぼ中庸である。洪積層の赤色土壌や黄色土壌は元来、生産力が低いが有機物の補給や深耕、適切な肥培管理によってかなりの生産をあげることができる。

3-3 低地の土壌

佐賀県の低地は、佐賀平野地域がその主体をなし、他に松浦川下流地域と伊万里川地域がある。灰色低地土壌、細粒灰色低地土壌、グライ土壌および部分的には粗粒灰色低地土壌、褐色低地土壌、泥炭土壌、黒泥土壌などが分布している。以上の三地域のなかでは佐賀平野がもっとも広く、しかも生産力が高く、本県における穀倉地帯をなしており、他の二地域の生産力はやや低い。

3.3.1 佐賀平野地域

佐賀県のほぼ中心より東部に分布し、筑後川をはさんで福岡県の平野部につらなり、いわゆる筑紫平野の一翼をなしている地域である。周辺の地域は北に花崗岩を主とする背振山地、西に安山岩、玄武岩、第三紀層からなる松浦杵島丘陵地があり、南は有明海に面している。この平野は筑後川および北部、西部の山地、丘陵地から有明海に注ぐ嘉瀬川、六角川、塩田川その他の河川による沖積作用と有明海の潮流の沖積作用によってできた干潟が自然にあるいは人工により陸化して形成されてきたいわゆる河海性沖積平野である。地形的には扇状地、デルタ、干拓地などに分けられる。扇状地は背振山地寄りに分布し、嘉瀬川その他の河川が花崗岩質の砂礫を運搬、堆積して形成したものである。デルタは潮汐平野が自然に陸化したもので大体海拔4m以下であり、その勾配はきわめて緩やかである。またデルタの表面にはクリークが非常に多く、水田の灌漑、排水に重要な役割を果たしている。デルタの先端は干拓地となり、きわめて平坦であるが、干拓をするとその先の干潟は年々新しい土砂の堆積で高くなる。一方、堤防の内側は乾燥によって地盤が沈下しはじめ、外側が高くなると内側は排水不良となる。

佐賀平野地域の土壌は以上の地形および生成過程を反映して、強粘質の細粒灰色低地土壌と壤質、粘質の灰色低地土壌および強粘質の細粒グライ土壌が広く分布し、一部に細粒質の灰色低地土壌その他がある。

細粒灰色低地土壌の範囲は牛津町より東では東西に走る海拔4～5mの線より南部に分布している。なお、本地域の西南部の白石、有明地帯では山麓附近までこの細粒灰色低地土壌が分布している。この土壌は粘土含量30～40%、置換容量は20～30m.eに達し、土壌養分も豊富であり、有明海北岸平野の代表的土壌であって水稻生産力はきわめて高い。

最南部の有明海沿いには干拓年次の新しい土壌が分布し、細粒グライ土壌に属する。土性が埴土、重埴

土でグライ層は深さ50～80 cmから出現し、排水はやや不良である。水稻の生産力の一部の強グライ土壌を除けばきわめて高い。

北部の背振山麓に近い地帯には花崗岩質の沖積堆積物を母材とする灰色低地土壌が分布している。このうち排水の比較的よいところには、灰褐色土壌、礫層礫質土壌が分布している。土性は壤質～粘質で、粘質土壌の水稻生産力はかなり高いが、壤質土壌ではやや低い。なお城原川、嘉瀬川の周辺には花崗岩質の粗粒灰色低地土壌や中粒質灰色低地土壌があり、これらの土壌は生産力はやや低い。また、山麓寄りの排水不良の地帯には低位泥炭土壌や黒泥土壌が分布し、これらの土壌はいずれも花崗岩質の沖積性土壌に泥炭または黒泥が埋没したものであり、一般に湧水面が高く、水稻生産力は低い。以上の土壌は主として水田として利用されているが、嘉瀬川沿いには沖積性堆積物に由来する壤質、粗粒質の褐色低地土壌があって、おもにそ菜畑として利用されている。

3.3.2 松浦低地

A 松浦川地域

背振・八幡山地や松浦村島丘陵地から唐津湾に注ぐ松浦川、玉島川の下流に広がる地域で、壤質、粘質の灰色低地土壌がこの地域の土壌の大半を占めている。松浦川下流の川沿いには河川のはん濠により堆積した砂礫層を有する粗粒灰色低地土壌があり、また、唐津市佐志の佐志川附近や浜玉町虹の松原砂丘の後背地には粗粒グライ土壌がある。また、排水の良い山麓部には褐色低地土壌があり、唐津市宇木などの低地に低位泥炭土壌や黒泥土壌が小面積分布している。松浦川地域はほとんど水田地帯であり、全地域を通じてこれからの土壌の生産力はやや低い。松浦川河口から浜崎にかけて砂丘未熟土壌がみられるが、これは虹の松原の海岸砂地である。内陸部程微砂質になり膨軟であるが、一般的に疎水性でやや緻密な性質を有し、海風の影響もあって生産力は劣る。

B 伊万里川地域

伊万里湾に面する低地で、干拓地の土壌は強粘質の細粒グライ土壌であり、大里、川東、川西などの排水良好な所に褐色低地土壌が分布している。この地域の褐色低地土壌は土性が強粘質または粘質で、深さ30 cm以内に礫層が出現する礫層土壌と30～60 cmに礫層が存在する礫質土壌からなり、生産力はやや低い。

グライ土壌は深さ50～80 cm附近にグライ層が出現する普通グライ土壌と作土直下からグライ層が出現する強グライ土壌の両者が分布し、いずれも土壌の自然肥沃度は高く、養分含量は中庸で、生産力はやや高いが、増冠水による災害を受けることが多く、また、低湿地のため裏作ができないところが多い。

3-4 離島地域

この地域の林野土壌は玄武岩が風化したもので、褐色および乾性褐色森林土壌（赤褐系）が分布し、いずれも埴質で理化学性は一般に悪く、生産力はかなり劣る。農地の土壌としては赤色土壌、暗赤色土壌、黄色土壌がおもなもので、これらの土壌はほとんど玄武岩の風化物を母材とする強粘質土壌である。酸性が強く、腐植含量が少ないいわゆる鉍質酸性土壌に属する。ほとんど畑地として利用され生産力はやや低い。また、ごく小面積に黄褐色土壌と細粒灰色低地土壌の水田が分布する。

木原唯幸（佐賀県農業試験場）

熊瀬川忠夫（佐賀県農林部林務課）

4. 土地利用可能性分級等の概要

4-1 土地利用現況の概要

本県は九州北西部（北緯 32°57′～33°37′、東経 129°44′～130°33′）に位置し、気候は、北部が裏日本型、南部は内陸型と内海型に属するが、広義には西九州型といえる。全县を通じて温暖で、西南暖地型の土地利用がなされる。農業県である本県の土地利用のパターンは比較的単純である。それは土地利用が地形や土地の肥沃度等、自然的要素によるもので、工業立地等の社会的要素が他県より少ないからである。すなわち、低地で肥沃な有明海沿岸の沖積平野に水田が集中し、畑地は緩傾斜で用水確保の困難な東松浦半島の丘陵性台地に多い。また、ほとんど温州みかんが植栽されている樹園地は、畑地よりもエロージョンが少なく適地性も広いため、おもに傾斜地に分布し、土壌的な特異性はみられないが、標高に制約され、おおむね 300m 以下である。とくにみかんの集団化がみられるのは脊振山地西部と、多良山地東部である。改良牧野や、改良草地は山間部にごくわずかに分布するにすぎない。

林野は標高 200～300 m 以上に主として分布し、脊振天山山間および多良国見山系を中心として人工林率は、県平均約 60 % と全国屈指である。これらの人工林は、スギ 66 %、ヒノキ 22 %、マツ 12 % で、脊振天山山間、多良山間はスギ林業地帯であり、有田周辺はマツ林業地帯として特徴づけられる。

一般に山頂部は国有林（17 %）、公有林（9 %）が多く、水源かん養保安林としての機能をはたしてきた。林野の 74 % を占める私有林は、戦後の水源造林を契機に、原野造林や林種転換造林が進められ、これら人工林はまだ幼令林偏重のきらいがあり、所有規模は零細で林相は多彩性をおび、いわゆる農家林地的な利用がなされている。

また、県内には 8 ヶ所の県立公園と玄海国定公園があるが、暖帯性ないし温帯性広葉樹林の残存とあいまって、県民のいこいの場ともなっている。

すなわち、林地の約 50 % が水源かん養、土砂流出防備、防風といった保安林や、公園となっており、林地の公益的機能が強く要請されるようになった。

このほか県東部で、国道 3 号線と同 34 号線が交叉する鳥栖市周辺では、近年内陸型工業地帯としての開発が進んでおり、農地や林地の転用が増加している。さらに県中央部の第三紀層地帯では荒廃した炭鉱跡地があり、一部は工業用地に転用されているが、まだ有効な土地利用ができないところもある。

また、北部の玄海灘沿岸は海食が進み、風光名媚なところから国定公園に指定されており、近年わずかではあるが観光用地化し、それに付随して観光農業の兆もみえはじめている。

以上に述べたような諸要素により、本県では 8 つの地域に区分され、各地域毎の土地利用概況について以下に述べる。

4.1.1 脊振・八幡山地

この山地は地形地質などから、脊振・天山を主峰とする脊振山地と、八幡・鬼ヶ鼻を主峰とする八幡山地に区分される。前者は 638 Km²、後者は 122 Km²で両者を合せると県の総地積の 30 % にあたる。

a) 脊振山地

花こう岩を主とする山塊で、浸食の進んだ起伏量の大きい山地であり、県地積の 4 分の 1 を占める。中央部は標高 400m 以上で、県内では高冷地と呼ばれ、温州みかんの植栽限界を越えている。

林野率は山麓部で 50～60 %、山間部で 70～80 % に達し福岡県境をなす脊梁山地和当地域南部山地を中心に約 20 % の国有林が分布する。林野のうち、山麓部では約 30～40 %、山間部では 70～80 % が人工林化されている。

また、樹種の分布を見ると、山間部では用材林の 90 %以上がスギで占められているのに対し、山麓部ではマツがこれに代っているものの、マツクイムシにより放置された林分が少なくない。この人工林は採草地を対象とした原野造林、新炭原木材を対象とした転換造林により、主に戦後着手されたもので、幼令林偏重のきらいはまぬがれない。

これらのスギはほとんどアヤスギであるが、富士町旧北山区を中心として、旧来優良母樹からの採種による実生苗造林も一部みられる。イワオスギ、フジスギ、オオノスギなど早生系品種が、七山村富士町を中心として近年さかんに造林されてきた。

農耕地はわずかに 13 %で、畑地はほとんどなく、水田が 5 %、樹園地が 7 %を占める。樹園地のほとんどは標高 300 m以下の山腹斜面に分布し、温州みかんが栽植され、それ以上の高冷地では若干の栗園が分布するにすぎない。おもなみかん産地として浜玉町、大和町、七山村があり、集団化した園が多い。

水田は山間地の中小河川沿いに分布し、ほとんどが稲の単作であるが、高冷地の一部では冷涼な気候を活用したトマト、ナス、レタス、リンドウなどの集団栽培がおこなわれ、地理的に近い北九州都市圏などへ出荷されている。

山間部では小規模な改良牧野があり、乳牛の育成などがおこなわれている。しかし、一般的には農家の兼業化や離農が進み、過疎化の傾向にある。また商業サイドからは北山ダム周辺の観光地化やゴルフ場の造成もなされている。

b) 八幡山地

第三紀層（砂岩、頁岩など）をベースとしてその上に玄武岩を載せている中起伏山地で、県地積の 5 %にあたる。このうち、玄武岩の風化土壌は約 3 分の 1で、林地が多いが、東部では樹園地もかなり分布する。平均標高は脊振山地より低く、温暖で耕地率は高い。

この地域の林野率は約 50 %で標高 300 m以上に多いが、人工林率はスギを主として当地域北斜面で約 40 %、南斜面では約 30 %と一般に低いが、県内でも少ない天然林の分布は自然保護的立場から再確認されてきている。南斜面に位置する大町町では、ヒノキを主にして 46 %と、人工林化が進んでいる。農耕地は水田 3 %、畑地 2 %、樹園地 17 %、計 22 %で樹園地率が高い。水田は山間の河川沿いに分布し、ほとんど 1 毛作である。畑地は自給園芸的な土地利用である。樹園地は多久市を中心に温州みかんが栽植されているが多久市東部の一部には枇杷があり、「納所ビワ」として市場へ出まわっている。

4.1.2 多良山地

この山地は県の南部に 228 km² を占め、県の総地積の約 9 %にあたる。経ヶ岳、多良岳、虚空蔵山を主峰とする山塊で、安山岩や玄武岩などの火山噴出岩で構成されている。一般に起伏量は大きく、解析の進んだ急峻な地形をなし、林野率が高いが、有明海に面した標高 400 m以下の山麓部では浸食谷のある熔岩流緩斜面をなし、耕地率とくに樹園地率が極めて高い。

林野率は山麓部で 50 ~ 60 %、山間部では 70 %以上に達し、山間部は国有林、公有林、会社有林などの占める比率が高い。人工林率は 57 ~ 77 %で比較的高い。山麓部は旧来能古見マツに代表されるように建築用材、坑木用材として、盛んにマツが栽植されたが、需要の減退、マツクイムシなどにより、ヒノキがこれに代っている。山間部は実生スギを主にした林分である。

また、山間部のほとんどは水源かん養林であるが、多良岳県立自然公園として指定されており、これら観光、木材などの資源開発のため、太良町を起点とし、嬉野町に通じる大幹線林道が開設中である。

この地域に占める農耕地の割合は、水田 8 %、畑地 2 %、樹園地 12 %、計 22 %で樹園地の占める割

合が高い。水田は大半が1毛作で、樹園地は温州みかんが植栽されており、農業労働の主力はみかん作へ移動している。

多良岳東部山麓は、後で述べる上場地帯とともに、県下の主要な畑作地帯であったが、今はほとんどみかん園に転換され、畑は自給用としてわずかに残っているにすぎない。また鹿島市では国営多良岳総合開発事業により、数百ヘクタールのみかん園が造成され、県下でも有数のみかん団地を形成している。

さらに西部の嬉野町は古くから泉都として知られているが、“茶どころ”としても有名で、標高400m以下の斜面にはいたるところに茶園がみられる。県下の茶園約1,000haの大半がこの嬉野町とその近隣に分布する。

4.1.3 国見・黒髪山地

この山地はおもに玄武岩からなる国見山、人形石山を主峰とする国見山形と、石英粗面岩を主とする黒髪山、玄武岩を主とする腰岳によって構成され、県西部に126km²を占め、県地積の約5%にあたる。このうちの国見山系で標高300～400m以下は第三紀層砂岩の風化土壌で、比較的緩傾斜であるが、黒髪山系は地形が急峻で耕地としての利用も少ない。

この地域の約50%が林野であるが、国見山系、青螺、黒髪山を中心に国有林の分布が大きく、水源かん養林、土砂流出防備林を合せると保安林の比率は約50%を占める。

人工林化は植栽樹種により若干異なっている。当地域南部の西有田、有田、山内町では、一般に土壌が瘠悪で古来窯業用燃料材としてマツが植栽され、60～70%が人工林化されている。一方、当地域の北面に位置する国見山系北部の伊万里市東山代、二里地区ではヒノキを主に、黒髪山北部の伊万里市松浦、武雄市武内地区ではスギを主にしているが、人工林化は約55%と低い。

この地域における農耕地は、水田13%、樹園地6%で、畑地はわずか1%にすぎない。このうち、水田と樹園地の大半は国見および人形石山の山麓斜面に分布し、水田はほとんど1毛作である。畑地は自給園芸としての利用が多い。樹園地は伊万里市や西有田町に多く、ほとんどが温州みかんで、ごく一部にブドウや茶樹もみられる。

さらに、この地域には陶都で有名な有田町があり、陶器工場への出かせぎなどで農家の兼業化が進んでいるが、反面、みかんや肥育牛に力を注ぐ農家もあり、飼料作物の栽培もおこなわれている。

4.1.4 松浦・杵島丘陵地

この丘陵地は、脊振山系と、多良・国見山系のほぼ中間に位置し、標高200～400mの山岳群によって構成され、本県地積の23%（572km²）を占める。これらの丘陵地は玄武岩を主とする北部地域（177km²）と、第三紀層砂岩、頁岩を主とする中南部地域（395km²）に区分される。前者は浸食歴の浅い台地状の畑作地帯であるが、後者は浸食の進んだ老年期の地形をなしている。平均標高は100m前後で、気候は比較的温暖である。

a) 北部丘陵地

この地域は俗に上場と呼ばれており、県地積の約7%にあたる。地形は台地状になっている場合もあるが、深さ50～150mの浸食谷が数多くみられ、丘陵性の地形が多い。谷底平地に水田が、尾根上または台地上に畑地や樹園地、林地が分布する。

玄海灘に突き出ているこの東松浦半島は、沿岸の海食が甚だしく、湾入に富み、風光明媚なところから国定公園に指定され、観光開発も着々と進んでいる。また対馬暖流の影響により、沿岸地帯は温暖で無霜地帯も多いが、夏期の雨量に乏しく、旱ばつになることが多い。用水対策として中小の溜池が無数に設けられているが、地形的に用水確保が不十分である。

この丘陵地の林野率は50%以下で、古来木炭の生産地として、シイ林は薪炭原木林として利用さ

れ、また造船用材として、スギを主に人工林も 30%程度あるが、スギの適地も少なく、人工林化は県内でもっとも低い。尾根筋など耕地防風林としてマツが植栽されたり、シイ類が残存するが、近年マテバシイ、アラカシ、モチノキ、タブノキ等緑化樹の山引苗の供給基地として注目をあびている。南部の内陸部ほど人工林化は 50%と進んでいる。また、沿岸部が国定公園に指定されているため、マツの枯損に対する防除が、空散等真剣に検討されている。本地域内での農耕地は、水田 14%、畑地 9%、樹園地 9%で、畑地率は県内でも高いほうである。水田は丘陵地の谷間に複雑に散在し、ほとんど稲の単作である。夏期の水不足対策として水稻の早期栽培が普及している。畑地には輸送園芸としてのハクサイ、ニンニク、西瓜、パレシヨや大豆などが栽培されており、これらの特産地化が進められている。樹園地には温州みかんが植栽され、畑地転換のみかん園も多い。しかし、この地域の農業を概観すれば、農家の兼業化は著しく、遠距離の出かせぎ人口も多く、過疎化の傾向をたどっているが、近年国営上場総合開発事業が推進され、畑地造成や松浦川取水による用水対策がなされようとしており、基幹農家による営農の拡大が期待されている。

b) 中南部丘陵地

内陸部の丘陵地で県地積の 16% (395km²) を占め、南東部は白石平野に接する。主として第三紀層 (砂岩、頁岩等) で著しく開折をうけ、盆地を有する老年期の地形をなしている。また、一部には第三紀層の上に玄武岩を載せた山頂部や、全山が安山岩で覆われているところもある。起伏量は 100 ~ 300m で山頂付近まで樹園地が点在している。

林野率は約 55% で、人工林率は 40 ~ 55% である。ハタツヤブクグリなどスギの占有率が高いが、南東部はヒノキ、南西部はマツが多い。当地域には伊万里市松浦、武雄市若木、東川登など造林用苗の県内における主要生産地が点在している。

この地域での耕地率は水田 10%、畑地 2%、樹園地 8%、計 20% である。水田は大半が 1 毛作で、畑地は自給蔬菜園としての性格が強い。樹園地のほとんどは温州みかんであるが、伊万里市の一部では梨が植栽され「大川梨」の名柄で出荷されている。このほか、西北端の伊万里湾岸では中規模の造船所が造営され、若干の林地や水田が用地に転用されている。また、水成岩地帯で各地に炭鉱跡地が点在しており、その一部は工業用地化されたが、ボタ山を含めてその利用度は低く、荒廃しているところが多い。

4.1.5 三養基段丘地

県東部の脊振・九千部山麓に東西にわたって分布するもので、県地積のわずか 2% (56km²) である。円礫を含む緩起伏の洪積段丘で、谷底平地と低位段丘面には水田が、中位段丘面には畑地と樹園地が、高位段丘面には樹園地と林地が主として分布する。この段丘の特徴として、旧期洪積世に生成されたといわれる赤色土のほか、淡色黒ボク土が点在し、後者の土壌は軽しようであるため、根菜や地下茎作物の適地となっている。高位段丘を主体に 20 ~ 30% の林地が点在するが、乾性~弱乾性土壌であるため、人工林率はマツを主に 10% 程度で一般に林相は悪い。近年、水稻の作付転換を契機として、緑化樹の養成が鳥栖市、基山町を中心に盛んになってきた。

農耕地は水田 23%、畑地 6%、樹園地 4% 程度である。水田裏作は少なく、若干の小麦が作付られている。畑地は大半が自給園芸であるが、一部ではキャベツや大根、西瓜などを出荷している。樹園地は温州みかん畑地転換のみかん園も多い。

そのほか、この地域は鳥栖市を中心に九州の交通の要で、内陸型軽工業地帯として開発され、農林地の工業用地化と、それに付随する宅地化が目立っている。なお、一部は公園やゴルフ場、競馬場などのレジャー施設としても利用されている。

4.1.6 松浦低地

この低地は、唐津市を中心とする松浦川中下流地域（ 67Km^2 ）と、伊万里市の伊万里川下流地域（ 38Km^2 ）に区分される。いずれも玄界灘に北流する河川の影響をうけた河成沖積地で、水田の分布がもつとも多く、ついで市街地などの宅地である。県地積の5%（ 105Km^2 ）を占める。

a) 松浦川地域

唐津市を中心とする平坦な沖積地で、県地積の3%を占める。このうち約40%が水田で、畑地と樹園地はわずかに1%にすぎず、水稲作のウェイトが高い。しかし、水田での裏作率は低く、小麦やナタネなどのほかに久里、鏡地区の一部ではキウリ、苺などのビニールハウス栽培、大根、人参、ゴボウ、キャベツなどの露地またはトンネル栽培があり、佐世保や福岡へ出荷されている。そのほか市街地を中心とした宅地や、天然記念物で特別名勝に指定されている、虹の松原の占める割合も多い。

b) 伊万里川地域

河川沖積の平坦地で、その30%は水田である。畑地は自給畑で、樹園地や林地はほとんどない。伊万里川沿岸の水田は干拓地が多く、排水不良でほとんど1毛作である。しかし、有田川中流の伊万里市二里町付近では水田裏作がなされ、小麦やナタネが作付されている。またごく一部にはビニールハウスやトンネル利用の野菜もみられる。

このほか、分布の大きいのは伊万里市街地などの宅地や河川敷があり、伊万里湾沿岸では木材工業などの工場用地も少しずつ増加している。山代、楠久などの炭鉱跡地は荒廃しているところが多い。

4.1.7 佐賀・白石平野

この地域は有明海に面し、筑後、嘉瀬、六角、牛津、塩田の各河川と潮汐の作用をうけ、沖積世以降に堆積した土壌で、肥沃な水田地帯となっている。このうち国鉄長崎本線より南部はほぼ平安初期以降の干陸地で、干拓されたものが多く、とくに肥沃で全国的な水稲の高位生産地帯を形成している。

地域の面積は 604Km^2 で、県地積の4分の1を占め、このなかに佐賀、白石、鹿島、三養基の各平坦地を包含する。このうち東部の三養基平坦地は、鳥栖市の近郊で農家の兼業化が進み、水田裏作率が低い。佐賀、白石、鹿島平坦地は代表的な水田作地帯で、裏作にはビール麦（二条大麦）が多く、白石のタマネギ、レンコン、い草がこれにつぎ、さらに鹿島のキウリ、イチゴ、小城郡のキウリ、キャベツなどが栽培されている。このほか神崎郡の酪農地帯での飼料作物、白石の水田ブドウもみうけられる。

畑地は佐賀平坦北部と、白石平坦のクリーク沿いなどにわずかに点在し、自給用に供されることが多いが、佐賀平坦北部の河岸段丘畑では若干の野菜が市場出荷されている。

林地はなく、水田が62%、畑地と樹園地はそれぞれ1%以下である。このほか佐賀市、多久市、武雄市、鹿島市を中心とした市街地や宅地、クリークの占める面積も大きい。なお、国営有明干拓福富工区、県営の福富、国造、七浦干拓では干陸後、未利用草地ヨソとなっている。

4.1.8 離島地域

この地域は玄海灘の馬渡島（ 4.0Km^2 ）を筆頭に加唐島（ 2.8Km^2 ）、加部島（ 2.7Km^2 ）、神集島（ 1.4Km^2 ）等を含む。このうち、加唐島は主に粗面岩類、他の島は主として玄武岩によって構成され、 $5\sim 15^\circ$ の傾斜をもち、浸食谷のある台地状地形をなしていることが多い。これらの狭い浸食谷の一部に天水利用の水田がわずかに分布し、台地上には畑地が多い。沿岸は急崖となっている。

林野は50～60%と推定されるが、馬渡島、加唐島などでクロマツが集団的に植栽されているものの、近年その枯損が目立つようになった。シイ類、カン類等が島の上部を覆うような様相であるが、耕地防風林等農業用林的利用のほかは、みるべきものがない。

また、これらの島しょは漁業のウェイトが高く、住民は比較的多いが水田はわずか5%しかなく、馬渡

島を除けば米の自給ができない島が多い。畑地は約 15 % を占めるが、ほとんどは 1,100 戸の世帯をまかなうための自給園芸となっている。樹園地は 1 % 以下でみるべきものはないが、最近馬渡島で畑地転換の夏柑園を集団的に造成する計画がある。

田中茂雄（佐賀県農業試験場）、

実松敬行（佐賀県林業試験場）

4-2 土地利用可能性分級の地域別の概要

佐賀県全域の土地について、所定の基準にもとずき、1 類地から 8 類地に区分した。この類地区分の根拠となるものは標高（H 区分）、傾斜（S 区分）、土壌生産力可能性等級（P 区分）の 3 つである。P 区分では土壌図の分類単位である土壌統群毎にその土壌生産力を判定した。

各類地の分布状況は、性状の異なる地形面や土壌が、細かく入りこんで分布するため、複雑な形となっている。したがって、4 類地の如きはその代表地域を選定することさえ困難な状態である。

類地毎の主な分布地域を概観すれば、1 類地は有明海に面した沖積平野に、2 類地は河川沿いや山麓部の低位段丘、扇状地、または干拓地に、3 類地は山麓部の緩傾斜地や台地状丘陵地と、一部山間部の緩斜面に点在する。4 類地は主に山地の山腹斜面に、5 類地は山地の尾根筋部に分布し、6 類地は、P 区分で 5 等級を設定しなかったので設けていない。7 類地は多良・経ヶ岳、黒髪山、八幡岳および天山・作礼山南斜面等の急斜地に点在する。8 類地は市街地、河川敷、池沼などの未区分地である。なお、前記の H、S、P に附帯する数字は小さい程良好な条件である。

4.2.1 脊振・八幡山地

この山地は本県の約 3 分の 1 を占め、各類地の分布も複雑に入り乱れている。最も分布の多いのは 4 類地であり、大半は山腹上部から山脚部にかけてのスギの造林地であるが、標高 400 m 以下では樹園地（みかん）も多い。この類地の P 区分は 2～3 等級（ $P_2 \sim 3$ ）であるが、傾斜が 15～30 度（ S_4 ）で急なため、これが制限因子となっていることが多い。

つぎに大きい分布をしめすのは 3 類地で、大半は S、P とともに 2～3 の水田であるが、山間地帯の山脚凹状地はスギの適地として点在し、また、低暖地では S_3 、 $P_2 \sim 3$ の樹園地も多い。

5 類地は稜線に帯状に分布し、その面積は 3 類地につぐ。全部が林地で、ヒノキ等の人工林も一部みられるが、風衝地となっている場合が多く、主として矮性広葉樹が分布する。

このほか、分布は小さいが谷底平地には 2 類地があり、ほとんど S_2 、 P_2 の水田である。天山南斜面や八幡岳山頂附近は三群変成岩類や玄武岩で構成され、とくに急傾斜地となっており、7 類地に区分される。この類地の全部が林地で、一般に急崖を呈し広葉樹林として残されているが、一部、土層が比較的厚いところは、スギ、ヒノキの造林地となっている。

本地域内に 1 類地は分布せず、8 類地には北山ダムがある。

4.2.2 多良山地

この山地は火山地であるため、類地分布のパターンは比較的単純である。すなわち、東部の熔岩流地帯の小起伏山地（ H_1 ）では、 $S_2 \sim 3$ 、 P_3 の 3 類地が多く、経ヶ岳を中心とする山間地（ H_2 ）では S_5 、 $P_2 \sim 4$ の 5 類地が多い。最も広い分布を示す 4 類地は、5 類地の下部に連続してみられ、 S_4 、 $P_2 \sim 3$ の場合が多い。この類地の大半は林地で、スギの適地となっているが、東部では樹園地（みかん）のところもある。

つぎに大きい分布を示すのは3類地であり、ほとんどが樹園地であるが、東部はみかん、西部（嬉野町）は茶樹が主体となっている。このほか、P₃の水田も含まれ、また極く一部にはスギの造林地もみられる。火山山地であるため、他の地域よりもS₄、P₅が多く、したがって5～7類地が多い。これらの類地は農耕地としての利用はほとんどない。5類地は比較的比高の小さい尾根筋に分布し、風衝地で広葉樹が多く、アカマツ、リョウブ、ソヨゴ、ハイノキ、ミヤマシキミ等乾生の植生が多くみられる。

7類地は県界や市町界等の主要稜線に分布し、風衝地で岩石地や矮性広葉樹で占められアカシデ、シロモジ、ミツバツツジ、イヌツゲ、ミヤマツツジ等がみられる。

2類地の分布は小さく、ほとんどがS₁～₂、P₂の水田である。1類地は極めてわずかに区分されるにすぎない。

4.2.3 国見・黒髪山地

この山地では3類地、4類地の分布が大きい。

3類地は国見山嶺の第三系緩傾斜地での分布が多く、黒髪山系には少ない。ほとんどがS₃、P₃の樹園地（みかん）とS₂、P₃の水田である。

4類地は、とくに黒髪山、腰岳、人形石山の山腹に多い。大半がS₄、P₃～₄でほとんど広葉樹林でしめられているが、マツの造林地も多く、さらに一部ではヒノキの造林地もみられる。腰岳周辺、人形石山山腹などの一部にS₄、P₂～₃の樹園地（みかん）がみられる。

傾斜の急な5類地の分布も多く、とくに玄武岩で構成される国見山系上部には、主にヒノキ林、流紋岩、安山岩からなる黒髪山系には、広葉樹林、アカマツ林、一部ヒノキ林がみられる。さらに黒髪山頂附近には、S₆、P₄の7類地もみられる。表土が浸食され、土壌は極めて瘠悪であり、広葉樹の林相も悪く、アカマツの人工林の生育も極めて劣る。

2類地の分布は小さく、ほとんどがS₁、P₂の水田である。1類地はほとんど分布しない。

4.2.4 松浦・杵島丘陵地

この地域は地形上からも、類地区分上からも、北部地域と中南部地域に分けることができる。

北部地域は、俗に上場と呼ばれている開析された熔岩台地で、中南部よりも起伏量が小さく、台地状地形が多く残っている地域である。

この地域の特徴は3類地が極めて多く、3分の2以上を占めていることである。この3類地は土地利用との関連がうすく、いろいろの地目が入り乱れている。類地のタイプとしてはS₂～₃、P₃が圧倒的に多く、一部に水田のS₃、P₁～₂またはS₂、P₃が含まれている。耕地では赤色、暗赤色土壌がこれにあたり、林地では褐色森林土壌（赤褐色系）がこれに該当する。

このほか、4類地ではS₄、P₃～₄の林地がほとんどでシイあるいはマツの耕地防風林となっている。1類地の分布は極めてわずかである。中南部地域で広い分布を示すのは3類地と4類地で、その分布量には差がみられない。このうち3類地は丘陵性中起伏山地の山腹下部、または浸食の浅い谷底地に分布し、4類地は大野岳、大平山、赤穂山、杵島山を主とする丘陵性山腹上部、または傾斜のやゝ急な独立山地にみられる。また3類地の約半分はS₃、P₂～₃の樹園地であり、4類地はほとんどがS₄、P₂～₃で広葉樹が主であるが、このほかヒノキの造林地も多く、さらに一部ではマツの造林地がみられる。

2類地もかなりの分布があり、ほとんどS₁、P₂の水田地帯となっているが、一部にはS₂、P₂のスギ造林地もみられる。

このほか、1類地は伊万里市東部や山内町北部などにわずかに水田として点在するにすぎない。

5類地は赤穂山、武雄市南東部などに分布し広葉樹林となっているが、その面積は少ない。

4.2.5 三養基段丘地

この地域のほとんどが2類地と3類地であり、双方とも約半分の面積を占める。2類地はおおむねS₁、P₂の水田となっており、中粒質の灰色土壌の場合が多い。

3類地はS₁、P₃の水田と、S₂、P₃の畑、樹園地が多く、前者は粗粒灰色低地土壌、後者は黄色土壌である。また、4類地と1類地の分布は小さく、前者はマツと広葉樹の混交林として放置され、後者は水田としての土地利用がなされている。

3類地(S₂、P₃)には、広葉樹林を主とする林地も分布するが、近年工業用地や宅地転用の傾向が強く、これらの林地は連年減少しつつある。

4.2.6 松浦低地

この地域のうち松浦川流域では、松浦川中流および徳須恵川、玉島川下流に2類地が、松浦川下流右岸に3類地が主として分布する。2類地はS₁、P₂の水田であり、中粒質の灰色土壌である。また3類地はS₁、P₃の水田であり、粗粒灰色低地土壌や泥炭土壌、粗粒グライ土壌などである。松浦潟沿岸の虹の松原は、S₁、P₄で4類地となっており、海岸砂地である。

伊万里川流域は、有田川と伊万里川を中心とする沖積地で大半が2類地である。この2類地はS₁、P₂からなる平坦な水田で、その大部分がグライ土壌である。しかし、有田川下流で川東橋より上方は褐色低地土壌となっている。また、有田川左岸には若干の丘陵地が含まれるが、S₃、P₃の樹園地が多い。

8類地には唐津市街地、伊万里市街地、河川敷などがある。

4.2.7 佐賀・白石平野

佐賀県の穀倉地といわれるこの平坦地は海成沖積の肥沃地で、1類地が大半を占めている。この1類地は、佐賀平坦では国鉄長崎本線より下方に、白石平坦では明治以降の干拓地を除く全域に分布し、土壌は細粒灰色低地土壌で生産力が高い。

2類地は主として佐賀平坦の長崎本線上方と、多久および武雄の両盆地、鹿島平坦、鳥栖市周辺に分布する。この類地も水田として利用され、土壌は中粒質の灰色低地土壌と、グライ土壌がほとんどを占めるが、一部には黒泥土壌も含まれる。グライ土壌は江戸期以降の干拓地および鹿島平坦、武雄盆地に多い。

3類地は2類地の中に点在するが、その分布は少なく、大半はS₁、P₃の水田であり、粗粒灰色低地土壌である。しかし、河岸段丘や沖積微高地には畑もみられ、火山碎屑物で被覆されているところが多い。また水田の一部には泥炭土壌も含まれている。

8類地には佐賀、鳥栖、多久、武雄、鹿島の各市街地や、嘉瀬川、六角川等の河川敷がある。

4.2.8 離島地域

玄海灘に浮かぶ神集、加部、馬渡、加唐、小川などの島しょは、県地積の1%にも満たない。ほとんどが3類地と4類地で、ほぼ同じ面積をしめる。

3類地は比較的傾斜の緩いところに分布し、主に畑地となっている。S₂～₃、P₃の暗赤色土壌が多いが、加唐島のものは黄色土壌である。

4類地は15～30度の傾斜地であり、大半はP₃～₄でシイやマツの耕地防風林となっている。天水田の多いこの地域の水田は、用水の関係で谷間の急傾斜地にわずかに分布するだけであるが、大半はこの4類地に包含される。

田中茂雄(佐賀県農業試験場)

実松敬行(佐賀県林業試験場)

B. 統計の部

1. 土地利用現況

1-1 土地利用現況別面積市町村別内訳

区 市町村名	農 地									草 地			
	田			畑						農 地 計	利 用 草 地	未 利 用 草 地 (原 野)	草 地 計
	普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地			計				
					果 樹 園	桑 茶 そ の 他							
佐賀市	4,775	0	4,775	178	12	167	7	174	364	5,139	6	17	23
唐津市	1,860	5	1,865	427	43	832	12	844	1,314	3,179	15	—	15
鳥栖市	1,834	0	1,834	131	4	145	1	146	281	2,115	0	—	0
多久市	1,230	0	1,230	115	18	1,264	6	1,270	1,403	2,633	2	—	2
伊万里市	3,456	1	3,460	503	58	1,243	41	1,284	1,845	5,305	32	—	32
武雄市	1,956	0	1,956	307	32	547	37	584	923	2,879	8	0	8
鹿島市	1,553	—	1,553	158	10	1,074	23	1,097	1,265	2,818	3	—	3
市 計	16,667	6	16,673	1,819	177	5,272	127	5,399	7,395	24,068	66	17	83
諸 富	642	0	642	4	0	—	—	—	4	646	1	6	7
川 副	2,424	—	2,424	19	0	10	—	10	29	453	—	4	4
東 与 賀	1,058	—	1,058	7	0	4	—	4	11	069	0	0	—
久 保 田	895	0	895	9	—	—	—	—	9	904	—	9	9
大 和	893	—	893	99	9	650	10	660	768	661	15	0	15
富 士	793	—	793	77	48	45	4	49	174	967	37	—	37
佐賀郡計	6,705	0	6,705	215	57	709	14	723	995	7,700	53	19	72
神 埼	1,690	—	1,690	84	4	171	2	173	261	951	1	2	3
千 代 田	1,565	0	1,565	27	1	—	—	—	28	593	0	—	—
三 田 川	563	—	563	41	8	18	0	18	67	630	0	—	—
東 脊 振	425	—	425	29	1	133	5	138	168	593	5	—	5
脊 振	275	—	275	31	34	140	8	148	213	488	22	—	22
三 瀬	306	—	306	31	14	7	6	13	58	364	19	16	35
神埼郡計	4,824	0	4,824	243	62	469	21	490	795	5,619	47	18	65
基 山	471	—	471	51	2	92	20	112	165	636	1	6	7
中 原	381	—	381	45	0	59	0	59	104	485	1	—	1
北 茂 安	747	—	747	71	4	46	2	48	123	870	1	—	1
三 根	972	32	1,004	16	0	1	—	1	17	1,021	—	—	—
上 峰	531	—	531	55	4	43	—	43	102	633	0	8	8
三養基郡計	3,102	32	3,134	238	10	241	22	263	511	3,645	3	14	17

(単位 ha)

林						地					宅地	公 共 の 用 地	そ の 地	合 計
人 工 林			天 然 林			未 立 木 地			除 地	林 地 計				
針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 用 土 放 牧 に て い	そ の 他	計			地	計	地	地
552	16	568	4	216	220	0	43	43	-	831	1,020	3,355	10,368	
1,630	51	1,681	292	2,645	2,937	3	1,215	1,218	-	5,836	499	3,114	12,643	
1,558	33	1,591	75	700	775	1	136	137	-	2,503	548	2,017	7,183	
1,739	11	1,750	66	2,407	2,473	0	625	625	-	4,848	297	1,936	9,716	
7,840	83	7,923	459	3,533	3,992	9	1,463	1,472	-	13,387	593	5,970	25,287	
3,521	60	3,581	39	2,745	2,784	4	370	374	-	6,739	296	2,974	12,896	
3,010	109	3,119	337	1,390	1,727	1	153	154	-	5,000	352	2,724	10,897	
19,850	363	20,213	1,272	13,636	14,908	18	4,005	4,023	-	38,144	3,605	22,090	88,990	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	136	431	1,220	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	164	1,541	4,162	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	44	364	1,477	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	87	628	1,628	
1,444	16	1,460	20	903	923	2	152	154	-	2,537	153	1,147	5,513	
7,921	39	7,960	211	1,544	1,755	1	1,789	1,790	-	11,505	84	1,709	14,302	
9,365	55	9,420	231	2,447	2,678	3	1,941	1,944	-	14,042	668	5,820	28,302	
386	12	398	14	170	184	1	37	38	-	620	157	1,197	3,928	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	113	757	2,463	
1	-	1	6	4	10	-	1	1	-	12	140	303	1,085	
1,481	24	1,505	44	298	342	-	127	127	-	1,974	39	679	3,290	
3,292	142	3,434	25	803	828	13	319	332	-	4,594	28	962	6,094	
2,961	76	2,037	58	633	691	3	238	241	-	2,969	26	680	4,074	
7,121	254	7,375	147	1,908	2,055	17	722	739	-	10,169	503	4,578	20,934	
662	1	663	-	150	150	0	69	69	-	882	112	565	2,202	
595	19	614	6	172	178	-	113	113	-	905	88	417	1,896	
17	2	19	6	112	118	-	1	1	-	138	92	565	1,666	
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90	501	1,612	
104	7	111	12	51	63	-	8	8	-	182	84	376	1,283	
1,378	29	1,407	24	485	509	0	191	191	-	2,107	466	2,424	8,659	

市町村名	農 地										草 地		
	田			畑						農地計	利用草地	未(原野)利用草地	草地計
	普通田	特殊田	計	普通畑	牧草畑	樹園地			計				
						果樹園	桑茶その園・園他	計					
小 城	716	—	716	28	2	576	1	577	607	1,323	0	—	0
三 日 月	1,153	—	1,153	44	3	121	0	121	168	1,321	0	—	0
牛 津	627	—	627	14	1	114	0	114	129	756	0	—	0
芦 刈	978	0	978	7	0	6	—	6	13	991	—	—	—
小城郡計	3,474	0	3,474	93	6	817	1	818	917	4,391	0	—	0
浜崎玉島	388	—	388	15	0	1,246	5	1,251	1,266	1,654	8	1	9
七 山	272	—	272	25	47	411	1	412	484	756	36	27	63
巖 木	288	—	288	27	16	445	10	455	498	786	22	—	22
相 知	634	0	634	28	1	366	2	368	397	1,031	10	—	10
北 波 多	283	—	283	18	1	165	25	190	209	492	3	—	3
肥 前	706	0	706	430	62	299	1	300	792	1,498	17	—	17
玄 海	569	—	569	237	32	281	4	285	554	1,123	12	—	12
鎮 西	401	—	401	312	91	307	0	307	710	1,111	7	—	7
呼 子	34	—	34	173	7	19	—	19	199	233	0	—	0
東松浦郡計	3,575	0	3,575	1,265	257	3,539	48	3,587	5,109	8,684	115	28	143
有 田	123	—	123	48	1	24	0	24	73	196	0	—	0
西 有 田	700	—	700	72	2	252	1	253	327	1,027	0	—	0
西松浦郡計	823	—	823	120	3	276	1	277	400	1,223	0	—	0
山 内	591	0	591	152	19	130	16	146	317	908	6	—	6
北 方	504	0	504	44	2	204	0	204	250	754	1	0	1
大 町	307	—	307	22	—	51	—	51	73	380	—	—	—
江 北	117	0	1,117	53	—	112	0	112	165	1,282	0	—	0
白 石	348	106	2,454	86	3	146	2	148	237	2,691	2	—	2
福 富	014	58	1,072	12	1	1	—	1	14	1,086	0	3	3
有 明	234	27	1,261	53	0	85	1	86	139	1,400	0	0	0
杵島郡計	7,115	191	7,306	422	25	7,29	19	7,48	1,195	8,501	9	3	12
太 良	540	—	540	167	16	1,097	36	1,133	1,316	1,856	2	—	2
塩 田	925	—	925	88	7	293	23	316	411	1,336	4	—	4
嬉 野	776	—	776	138	4	100	361	461	603	1,379	2	—	2
藤津郡計	2,241	—	2,241	393	27	1,490	420	1,910	2,330	4,571	8	—	8

(単位 ha)

林 地									除 地	林 地 計	宅 地	公 共 の 用 地	そ の 他	合 計
人 工 林			天 然 林			未 立 木 地								
針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 利 る 草 用 土 放 し 地 牧 て い る	そ の 他	計						
1,128	30	1,158	9	556	565	0	267	267	—	1,990	160	1,056	4,529	
51	0	51	—	21	21	—	17	17	—	89	81	539	2,030	
36	1	37	3	34	37	—	10	10	—	84	83	415	1,338	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	62	558	1,611	
1,215	31	1,246	12	611	623	0	294	294	—	2,163	386	2,568	9,508	
1,382	12	1,394	178	521	699	1	347	348	—	2,441	106	997	5,207	
3,239	2	3,241	59	493	552	5	474	479	—	4,272	37	1,189	6,317	
2,865	13	2,878	63	927	990	6	528	534	—	4,402	73	743	6,026	
2,357	14	2,371	111	1,537	1,648	0	251	251	—	4,270	100	1,109	6,520	
769	5	774	35	575	610	—	220	220	—	1,604	56	471	2,626	
337	3	340	42	990	1,032	1	369	370	—	1,742	84	1,342	4,683	
356	9	365	24	714	738	2	260	262	—	1,365	58	1,018	3,576	
242	10	252	48	1,105	1,153	2	175	177	—	1,582	62	1,154	3,916	
26	1	27	26	132	158	—	19	19	—	204	55	243	735	
11,573	69	11,642	586	6,994	7,580	17	2,643	2,660	—	21,882	631	8,266	39,606	
1,062	79	1,141	166	560	726	—	43	43	—	1,910	121	447	2,674	
1,214	33	1,247	136	489	625	0	163	163	—	2,035	73	733	3,868	
2,276	112	2,388	302	1,049	1,351	0	206	206	—	3,945	194	1,180	6,542	
1,348	5	1,353	11	672	683	0	100	100	—	2,136	73	953	4,076	
385	14	399	13	654	667	0	71	71	—	1,137	85	762	2,739	
137	21	158	2	137	139	—	14	14	—	311	118	337	1,146	
93	12	105	2	246	248	—	38	38	—	391	113	642	2,428	
139	—	139	—	141	141	—	17	17	—	297	156	800	3,946	
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	69	458	1,616	
262	5	267	30	293	323	—	21	21	—	611	79	447	2,537	
2,364	57	2,421	58	2,143	2,201	0	261	261	—	4,883	693	4,399	18,488	
2,434	15	2,449	69	1,350	1,419	2	245	247	—	4,115	103	1,362	7,438	
1,591	4	1,595	32	418	450	0	46	46	—	2,091	107	1,045	4,583	
3,244	8	3,252	165	1,132	1,297	1	224	225	—	4,774	169	1,717	8,041	
7,269	27	7,296	266	2,900	3,166	3	515	518	—	10,980	379	4,124	20,062	

市町村名	区 分	農 地									草 地			
		田			畑						農 地 計	利 用 草 地	未 利 用 草 地 (原 野)	草 地 計
		普 通 田	特 殊 田	計	普 通 畑	牧 草 畑	樹 園 地			計				
							果 樹 園	桑 園	茶 園 ・ 其 他					
郡	計	31,859	223	32,082	2,989	447	8,270	546	8,816	12,252	44,334	235	82	317
県	計	48,526	229	48,755	4,808	624	13,542	673	14,215	19,647	68,402	301	99	400

1-2 D.I.D.おおむね10万人以上の都市の土地利用現況の内訳

市	区 分	市 街 地 の 内 訳							
		商 業 区	工 業 区			商 宅 区	そ の 他		
			重 工 業 区	軽 工 業 区	計		漁 業 区	運 輸 区	公 共 区
佐賀市		3	1	0	1	7	-	0	1

(単位 ha)

林 地									除 地	林 地 計	宅 地	公 共 の 用 地 他	合 計
人 工 林			天 然 林			未 立 木 地							
針 葉 樹	広 葉 樹	計	針 葉 樹	広 葉 樹	計	採 利 る 草 用 土 放 し 地 牧 て に い	そ の 他	計					
42,561	634	43,195	1,626	18,537	20,163	40	6,773	6,813	—	70,171	3,920	33,359	152,101
62,411	997	63,408	2,898	32,173	35,071	58	10,778	10,836	—	109,315	7,525	55,449	241,091

(単位 km²)

		市 街 地 外 の 内 訳						合 計
計	市 街 地 区	農 地	草 地	林 地	宅 地	公 共 の 用 地 ・ 他	計	
1	12	51	0	8	3	30	95	107

2. 自然的土地条件

2-1 傾斜区分別面積市町村別内訳

(単位 km²)

区分 市町村名	0°～3°	3°～8°	8°～15°	15°～20°	20°～30°	30°～40°	40°～	合計
佐賀市	92	1	2	5	3	1	—	104
唐津市	33	26	18	31	19	0	0	127
鳥栖市	38	6	4	10	12	2	—	72
多久市	19	8	19	20	22	5	4	97
伊万里市	48	38	52	45	57	9	4	253
武雄市	30	15	26	22	24	10	2	129
鹿島市	27	17	5	11	32	14	4	110
市計	287	111	126	144	169	41	14	892
諸富	12	—	—	—	—	—	—	12
川副	42	—	—	—	—	—	—	42
東与賀	15	—	—	—	—	—	—	15
久保田	16	—	—	—	—	—	—	16
大和	20	4	4	12	14	1	—	55
富士	—	8	28	47	51	9	—	143
佐賀郡計	105	12	32	59	65	10	—	283
神埼	29	2	2	2	4	0	—	39
千代田	25	—	—	—	—	—	—	25
三田川	11	0	—	—	—	—	—	11
東脊振	8	4	3	6	9	3	—	33
脊振	—	4	12	29	15	1	0	61
三瀬	—	5	7	16	12	1	—	41
神埼郡計	73	15	24	53	40	5	0	210
基山	6	1	4	4	6	1	—	22
中原	6	2	2	4	4	1	—	19
北茂安	14	2	1	0	—	—	—	17
三根	16	—	—	—	—	—	—	16
上峰	9	2	1	1	—	—	—	13
三養基郡計	51	7	8	9	10	2	—	87
小城	11	0	2	14	11	6	1	45
三日月	17	—	1	1	1	—	—	20

区分 市町村名	0°~3°	3°~8°	8°~15°	15°~20°	20°~30°	30°~40°	40°~	合 計
牛 津	11	0	1	0	1	—	—	13
芦 刈	16	—	—	—	—	—	—	16
小城郡計	55	0	4	15	13	6	1	94
浜 玉	8	3	11	17	11	2	—	52
七 山	—	5	19	25	11	3	—	63
巖 木	3	2	13	16	14	9	3	60
相 知	14	5	8	17	18	2	1	65
北 波 多	4	3	6	9	4	0	0	26
肥 前	0	14	10	20	3	0	—	47
玄 海	2	13	7	7	6	1	—	36
鎮 西	2	17	11	6	3	0	—	39
呼 子	2	4	0	1	0	—	—	7
東松浦郡計	35	66	85	118	70	17	4	395
有 田	4	5	7	5	2	2	2	27
西 有 田	8	8	7	5	7	3	1	39
西松浦郡計	12	13	14	10	9	5	3	66
山 内	8	10	15	6	1	0	1	41
北 方	9	5	5	2	5	1	0	27
大 町	5	3	2	1	1	—	—	12
江 北	17	1	2	3	1	—	—	24
白 石	34	—	1	1	4	—	—	40
福 富	16	—	—	—	—	—	—	16
有 明	16	—	1	3	5	0	0	25
杵島郡計	105	19	26	16	17	1	1	185
太 良	5	15	12	13	14	11	4	74
塩 田	12	4	2	14	9	5	0	46
嬉 野	8	10	14	11	30	6	1	80
藤津郡計	25	29	28	38	53	22	5	200
郡 計	461	161	221	318	277	68	14	1,520
県 計	748	272	347	462	446	109	28	2,412

2-2 標高区分別面積市町村別内訳

(単位 km²)

区分 市町村名	0~ 100m	100~ 200m	200~ 400m	400~ 600m	600~ 800m	800~ 1000m	1000~ 1500m	1500m~	合 計
佐 賀 市	98	3	2	1	—	—	—	—	104
唐 津 市	76	31	16	3	1	—	—	—	127
鳥 栖 市	48	7	10	6	0	1	—	—	72
多 久 市	35	31	24	4	2	1	0	—	97
伊 万 里 市	136	67	35	13	2	—	—	—	253
武 雄 市	75	34	19	1	0	—	—	—	129
鹿 島 市	43	17	28	11	8	2	1	—	110
市 計	511	190	134	39	13	4	1	—	892
諸 富	12	—	—	—	—	—	—	—	12
川 副	42	—	—	—	—	—	—	—	42
東 与 賀	15	—	—	—	—	—	—	—	15
久 保 田	16	—	—	—	—	—	—	—	16
大 和	25	12	16	2	—	—	—	—	55
富 士	1	4	33	64	39	2	0	—	143
佐賀郡計	111	116	49	66	39	2	0	—	283
神 埼	30	4	3	2	—	—	—	—	39
千 代 田	25	—	—	—	—	—	—	—	25
三 田 川	11	—	—	—	—	—	—	—	11
東 脊 振	9	3	7	9	4	1	—	—	33
脊 振	0	2	23	20	12	4	—	—	61
三 瀬	—	—	6	28	6	1	—	—	41
神埼郡計	75	9	39	59	22	6	—	—	210
基 山	10	4	7	1	—	—	—	—	22
中 原	10	2	4	3	0	—	—	—	19
北 茂 安	17	—	—	—	—	—	—	—	17
三 根	16	—	—	—	—	—	—	—	16
上 峰	11	1	1	0	—	—	—	—	13
三養基郡計	64	7	12	4	0	—	—	—	87
小 城	16	6	11	7	3	2	0	—	45
三 日 月	18	1	1	0	—	—	—	—	20
牛 津	11	1	1	—	—	—	—	—	13

(単位 km²)

区分 市町村名	0~ 100m	100~ 200m	200~ 400m	400~ 600m	600~ 800m	800~ 1000m	1000~ 1500m	1500m~	合 計
芦 刈	16	—	—	—	—	—	—	—	16
小城郡計	61	8	13	7	3	2	0	—	94
浜 玉	19	9	6	9	8	1	—	—	52
七 山	1	5	12	27	18	0	—	—	63
巖 木	9	9	10	11	18	3	—	—	60
相 知	30	17	11	5	2	0	—	—	65
北 波 多	15	10	1	—	—	—	—	—	26
肥 前	9	35	3	—	—	—	—	—	47
玄 海	24	11	1	—	—	—	—	—	36
鎮 西	24	15	—	—	—	—	—	—	39
呼 子	7	—	—	—	—	—	—	—	7
東松浦郡計	138	111	44	52	46	4	—	—	395
有 田	22	3	2	—	—	—	—	—	27
西 有 田	15	9	10	4	1	—	—	—	39
西松浦郡計	37	12	12	4	1	—	—	—	66
山 内	11	17	13	0	—	—	—	—	41
北 方	17	7	3	0	—	—	—	—	27
大 町	8	2	2	0	—	—	—	—	12
江 北	20	3	1	—	—	—	—	—	24
白 石	36	2	2	—	—	—	—	—	40
福 富	16	—	—	—	—	—	—	—	16
有 明	20	3	2	—	—	—	—	—	25
杵島郡計	128	34	23	0	—	—	—	—	185
太 良	25	14	18	10	5	2	—	—	74
塩 田	26	14	6	0	—	—	—	—	46
嬉 野	13	18	30	15	4	—	—	—	80
藤 津郡計	64	46	54	25	9	2	—	—	200
郡 計	678	243	246	217	120	16	0	—	1,520
県 計	1,189	433	380	256	133	20	1	—	2,412

2-3 地形区分別面積市町村別内訳

市町村名	山 地					火 山 地			
	大起伏	中起伏	小起伏	山 麓	計	大起伏	中起伏	小起伏	山 麓
佐 賀 市	—	5	5	1	11	—	—	—	—
唐 津 市	—	9	7	4	20	—	—	—	—
鳥 栖 市	—	12	15	5	32	—	—	—	—
多 久 市	6	7	44	11	68	—	—	—	—
伊 万 里 市	—	35	64	28	127	—	—	—	—
武 雄 市	—	7	37	23	67	—	—	—	—
鹿 島 市	—	—	—	—	—	6	25	37	81
市 計	6	75	172	72	325	6	25	37	81
諸 富	—	—	—	—	—	—	—	—	—
川 副	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東 与 賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—
久 保 田	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大 和	—	8	25	2	35	—	—	—	—
富 士	—	17	112	3	132	—	—	—	—
佐 賀 郡 計	—	25	137	5	167	—	—	—	—
神 埼	—	3	6	1	10	—	—	—	—
千 代 田	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三 田 川	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東 脊 振	—	22	1	2	25	—	—	—	—
脊 振	—	14	20	2	36	—	—	—	—
三 瀬	—	10	—	2	12	—	—	—	—
神 埼 郡 計	—	49	27	7	83	—	—	—	—
基 山	—	—	10	2	12	—	—	—	—
中 原	—	3	4	3	10	—	—	—	—
北 茂 安	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三 根	—	—	—	—	—	—	—	—	—
上 峰	—	1	—	2	3	—	—	—	—
三 養 基 郡 計	—	4	14	7	25	—	—	—	—
小 城	7	13	6	6	32	—	—	—	—

(単位 km²)

計	丘陵地			段 丘	低地				合 計
	大起伏	小起伏	計		扇地	状性 三洲	角性	砂および 自然堤	
-	-	-	-	2	25	60	6	91	104
-	55	20	75	-	4	24	4	32	127
-	2	3	5	9	11	15	-	26	72
-	11	1	12	2	14	1	-	15	97
-	77	10	87	0	24	15	-	39	253
-	27	7	34	1	20	7	-	27	129
81	0	-	0	1	12	16	-	28	110
81	172	41	213	15	110	138	10	258	892
-	-	-	-	-	-	12	-	12	12
-	-	-	-	-	-	42	0	42	42
-	-	-	-	-	-	15	-	15	15
-	-	-	-	-	-	16	-	16	16
-	0	0	0	2	18	-	-	18	55
-	9	-	9	-	2	-	-	2	143
-	9	0	9	2	20	85	0	105	283
-	-	-	1	2	24	2	-	26	39
-	-	-	-	-	0	25	-	25	25
-	-	-	-	3	4	4	-	8	11
-	-	-	-	3	5	-	-	5	33
-	25	-	25	-	-	-	-	-	61
-	24	3	27	-	2	-	-	2	41
-	50	3	53	8	35	31	-	66	210
-	2	2	4	1	5	-	-	5	22
-	-	-	-	6	3	-	-	3	19
-	-	3	3	2	2	10	-	12	17
-	-	-	-	-	-	16	-	16	16
-	-	-	-	3	2	5	-	7	13
-	2	5	7	12	12	31	-	43	87
-	1	2	3	0	9	1	-	10	45

(単位 km²)

区 分 市 町 村 名	山 地					火 山 地			
	大起伏	中起伏	小起伏	山 麓	計	大起伏	中起伏	小起伏	山 麓
三 日 月	—	—	0	1	1	—	—	—	—
牛 津	—	—	1	1	2	—	—	—	—
芦 刈	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小 城 郡 計	7	13	7	8	35	—	—	—	—
浜 玉	1	24	11	6	42	—	—	—	—
七 山	—	20	38	3	61	—	—	—	—
巖 木	7	18	24	4	53	—	—	—	—
相 知	5	8	16	11	40	—	—	—	—
北 波 多	—	—	2	3	5	—	—	—	—
肥 前	—	—	—	—	—	—	—	—	—
玄 海	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鎮 西	—	—	4	—	4	—	—	—	—
呼 子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東松浦郡計	13	70	95	27	205	—	—	—	—
有 田	—	3	15	—	18	—	—	—	—
西 有 田	—	17	6	6	29	—	—	—	—
西松浦郡計	—	20	21	6	47	—	—	—	—
山 内	—	3	17	6	26	—	—	—	—
北 方	—	1	7	—	8	—	—	—	—
大 町	—	3	—	4	7	—	—	—	—
江 北	—	—	5	2	7	—	—	—	—
白 石	—	—	5	—	5	—	—	—	—
福 富	—	—	—	—	—	—	—	—	—
有 明	—	—	7	—	7	—	—	—	—
杵 島 郡 計	—	7	41	12	60	—	—	—	—
太 良	—	—	6	—	6	3	16	32	4
塩 田	—	—	25	4	29	—	—	3	—
嬉 野	—	—	53	4	57	—	6	8	—
藤 津 郡 計	—	—	84	8	92	3	22	43	4
郡 計	20	188	426	80	714	3	22	43	4
県 計	26	263	598	152	1,039	9	47	80	17

計	丘陵地			段 丘	低地				計	合 計
	大起伏	小起伏	計		扇地	状性	三洲	角性		
-	1	-	1	1	17	-	-	17	20	
-	-	-	-	-	1	9	1	11	13	
-	-	-	-	-	-	16	-	16	16	
-	2	2	4	1	27	26	1	54	94	
-	4	-	4	-	2	3	1	6	52	
-	2	-	2	-	0	-	-	0	63	
-	4	-	4	-	3	-	-	3	60	
-	10	3	13	-	10	2	-	12	65	
-	16	-	16	-	2	3	-	5	26	
-	36	11	47	-	0	0	-	0	47	
-	27	7	34	-	1	1	-	2	36	
-	18	16	34	-	1	0	-	1	39	
-	2	5	7	-	-	-	-	-	7	
-	119	42	161	-	19	9	1	29	395	
-	6	-	6	-	3	-	-	3	27	
-	2	-	2	-	8	0	-	8	39	
-	8	-	8	-	11	0	-	11	66	
-	8	-	8	-	7	-	-	7	41	
-	10	1	11	-	1	7	-	8	27	
-	-	-	-	-	0	5	-	5	12	
-	-	-	-	-	1	16	-	17	24	
-	-	0	0	0	0	35	-	35	40	
-	-	-	-	-	-	16	-	16	16	
-	-	1	1	-	0	17	-	17	25	
-	18	2	20	0	9	96	-	105	185	
55	8	1	9	-	3	1	-	4	74	
3	1	-	1	1	7	5	-	12	46	
14	-	3	3	0	6	-	-	6	80	
72	9	4	13	1	16	6	-	22	200	
72	217	58	275	24	149	284	2	435	1,520	
153	389	99	488	39	259	422	12	693	2,412	

2-4 表層地質分布面積市町村別内訳

(単位 km²)

区 分 市町村名	沖積層			洪積層	火 山 岩 類								
	泥を主とするもの	砂を主とするもの	計	砂礫を主とするもの	流紋岩	流紋岩質凝り岩	安山岩	安山岩質安山岩	安山岩質安山岩	噴岐岩	玄武岩及玄武岩質溶岩	粗粒玄武岩	計
佐賀市	64	26	90	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
唐津市	22	11	33	1	-	-	-	-	-	-	25	-	25
鳥栖市	17	14	31	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
多久市	1	16	17	2	-	-	3	1	-	2	18	1	25
伊万里市	16	24	40	1	1	1	4	-	-	-	33	3	42
武雄市	7	21	28	1	3	1	7	2	5	-	4	4	26
鹿島市	14	15	29	1	-	-	31	47	-	-	2	-	80
市計	141	127	268	20	4	2	45	50	5	2	82	8	198
諸富	12	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川副	42	-	42	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東与賀	15	-	15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
久保田	16	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大和	-	18	18	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富士	-	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀郡計	85	21	106	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神埼	9	14	23	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千代田	25	0	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三田川	4	4	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東脊振	-	5	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
脊振	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三瀬	-	3	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神埼郡計	38	26	64	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-
基山	-	5	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中原	-	3	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北茂安	10	2	12	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三根	16	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上峰	4	3	7	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三養基郡計	30	13	43	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-
小城	1	11	12	0	-	-	-	-	-	-	3	-	3
三日月	3	13	16	1	-	-	-	-	-	-	0	-	0
牛津	10	1	11	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
芦刈	16	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	30	25	55	1	-	-	-	-	-	-	5	-	5
浜玉	3	4	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(単位 km²)

第三系					深成岩類					変成岩類			合計	
砂・頁岩互層 TN	頁岩 Tp	砂・頁岩互層 Tp	砂岩 TN・Tp	計	雨雲母 花崗岩	黒雲母 花崗岩	花崗 閃綠岩	班粒岩	蛇紋岩	計	綠色 片岩	泥質 片岩		計
-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	10	2	-	2	104
1	-	1	2	4	-	62	2	-	-	64	-	-	-	127
-	-	-	-	-	1	9	18	-	-	28	1	-	1	72
-	-	4	32	36	-	-	3	3	0	6	8	3	11	97
14	18	9	129	170	-	-	-	-	-	-	-	-	-	253
-	18	15	41	74	-	-	-	-	-	-	-	-	-	129
-	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	110
15	36	29	204	284	11	71	23	3	0	108	11	3	14	892
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	42
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
-	-	-	-	-	23	2	6	-	-	31	4	-	4	55
-	-	-	-	-	24	21	86	1	1	133	7	-	7	143
-	-	-	-	-	47	23	92	1	1	164	11	-	11	283
-	-	-	-	-	10	-	2	-	-	12	2	-	2	39
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11
-	-	-	-	-	3	1	21	-	-	25	-	-	-	33
-	-	-	-	-	14	-	47	-	-	61	-	-	-	61
-	-	-	-	-	10	-	28	0	-	38	-	-	-	41
-	-	-	-	-	37	1	98	0	-	136	2	-	2	210
-	-	-	-	-	-	5	11	-	-	16	-	-	-	22
-	-	-	-	-	-	-	11	-	-	11	-	-	-	19
-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	-	17
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
-	-	-	-	-	0	-	3	-	-	3	-	-	-	13
-	-	-	-	-	2	5	25	-	-	32	-	-	-	87
-	-	-	-	-	1	12	-	1	2	16	11	3	14	45
-	-	-	-	-	2	1	-	-	0	3	-	0	0	20
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16
-	-	-	-	-	3	13	-	1	2	19	11	3	14	94
-	-	-	-	-	-	26	19	-	-	45	-	-	-	52

市町村名	区分	沖積層			洪積層	火 山 岩 岩 類								
		泥を主とするもの	砂を主とするもの	計	砂礫を主とするもの	流紋岩	流紋岩質凝灰岩	安山岩	安山岩質凝灰岩	変質安山岩	讃岐岩	玄武岩及溶岩及び凝灰岩	粗粒玄武岩	計
七 山	巖 木	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
相 知	波 多	2	9	11	—	—	—	0	—	—	—	3	—	3
北 肥	前 海	—	4	4	—	—	—	—	—	—	—	0	—	0
玄 鎮	西 子	0	—	0	—	—	—	—	—	—	—	28	—	28
呼 東	松浦郡計	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	25	—	25
		0	1	1	—	—	—	—	—	—	—	35	—	35
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	—	5
		6	22	28	0	—	—	0	—	—	—	100	—	100
有 田	西 有 田	—	3	3	—	2	8	—	—	—	0	—	—	10
西 有 田	西松浦郡計	—	7	7	—	2	1	2	1	—	1	3	—	10
		—	10	10	—	4	9	2	1	—	1	3	—	20
山 内	北 方	—	7	7	—	2	2	1	0	—	—	8	0	13
大 町	江 北	7	1	8	—	0	—	5	1	—	—	1	—	7
白 石	福 富	5	1	6	—	—	—	0	—	—	0	1	—	1
福 有	明 島	16	1	17	—	—	—	—	—	—	—	2	—	2
有 明	村 島	35	0	35	—	—	—	5	0	—	—	—	—	5
村 島	郡 計	16	—	16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		17	0	17	—	—	—	6	2	—	—	—	—	8
		96	10	106	—	2	2	17	3	—	0	12	0	36
太 良	塩 田	—	5	5	—	—	—	39	11	—	—	19	—	69
嬉 野	藤 津	6	7	13	2	—	—	6	5	17	—	—	—	28
藤 津	郡 計	—	8	8	0	1	—	14	21	3	7	11	—	57
		6	20	26	2	1	—	59	37	20	7	30	—	154
郡 計		291	147	438	25	7	11	78	41	20	8	150	0	315
県 計		432	274	706	45	11	13	123	91	25	10	232	8	513

第 三 系					深 成 岩 類					變 成 岩 類			合 計	
砂·頁 岩互層 T _N	頁 岩 T _P	砂·頁 岩互層 T _P	砂 岩 T _N ·T _P	計	兩雲母 花崗岩	黑雲母 花崗岩	花 崗 閃綠岩	班粒岩	蛇紋岩	計	綠 色 泥 質 片 岩	計		
—	—	—	—	—	1	12	49	—	0	62	0	0	0	63
—	—	0	9	9	1	22	7	—	0	30	15	—	15	60
—	—	5	20	25	—	18	5	—	2	25	1	—	1	65
—	—	5	17	22	—	0	—	—	—	0	—	—	—	26
8	2	0	9	19	—	—	—	—	—	—	—	—	—	47
2	0	—	4	6	—	3	—	—	—	3	—	—	—	36
2	—	—	0	2	—	1	—	—	—	1	—	—	—	39
2	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
14	2	10	59	85	2	82	80	—	2	166	16	0	16	395
—	2	2	10	14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27
0	5	2	15	22	—	—	—	—	—	—	—	—	—	39
0	7	4	25	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	66
—	14	—	7	21	—	—	—	—	—	—	—	—	—	41
—	1	6	5	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	27
—	—	2	3	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	12
—	—	2	3	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	24
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	40
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	16
—	—	—	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	25
—	15	10	18	43	—	—	—	—	—	—	—	—	—	185
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	74
—	—	0	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	46
—	3	7	15	15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80
—	3	7	18	18	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200
14	27	31	110	182	91	124	295	2	5	517	40	3	43	1520
29	63	60	314	466	102	195	318	5	5	625	51	6	57	2412
T _N T _P	新第三系 古第三系													

2-5 土 統群分布面積市町村別内訳

市町村	土壌統群	岩 石 地	赤 熟 土				黒ボク土			褐 色 森 林 土							赤 黄			
			未 熟 土 壤	残 土 積 未 熟 壤	砂 土 丘 未 熟 壤	計	黒 ボ ク 土 壤	淡 色 黒 ボ ク 壤	計	乾 森 性 林 褐 土 色 壤	(黄 褐 色)	(赤 褐 色)	褐 土 色 森 林 壤	(黄 褐 色)	(赤 褐 色)	湿 森 性 林 褐 土 色 壤	計	赤 色 土 壤	黄 色 土 壤	
佐賀市		-	-	-	-	-	1	1	-	5	-	-	5	0	-	10	-	3		
唐津市		-	-	-	2	2	-	-	-	14	5	-	35	14	1	69	1	14		
鳥栖市		-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	16	2	2	26	-	2		
多久市		-	1	-	-	1	-	-	-	11	6	9	5	8	3	52	-	18		
伊万里市		-	1	-	-	1	0	-	-	36	9	3	94	33	3	178	-	34		
武雄市		0	-	-	-	-	1	-	1	6	26	2	8	38	4	0	84	-	20	
鹿島市		1	-	-	-	-	-	-	-	19	-	-	39	0	0	5	63	1	24	
市計		1	2	-	2	4	1	1	2	25	97	23	59	203	61	14	482	2	115	
諸富		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
川副		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
東与賀		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
久保田		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大和		-	-	-	-	-	-	1	1	-	13	-	-	18	-	0	31	-	7	
富士		-	-	0	-	0	-	-	-	2	22	-	4	88	-	10	126	-	6	
佐賀郡計		-	-	0	-	0	-	1	1	2	35	-	4	106	-	10	157	-	13	
神埼		-	-	-	-	-	-	1	1	-	4	0	-	4	1	0	9	-	4	
千代田		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
三田川		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
東脊振		-	-	-	-	-	-	2	-	2	-	6	-	-	15	-	2	23	-	2
脊振		-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	-	-	36	-	5	54	-	4	
三瀬		-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	23	-	3	32	-	4	
神埼郡計		-	-	-	-	-	2	1	3	-	29	0	-	78	1	10	118	-	15	
基山		-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	8	1	1	13	-	1	
中原		-	-	-	-	-	-	0	0	-	3	-	-	8	0	1	12	-	1	
北茂安		-	-	-	-	-	-	0	0	-	1	-	-	1	1	-	3	-	1	
三根		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
上峰		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	0	4	-	3	
三養基郡計		-	-	-	-	-	-	0	0	-	9	0	-	19	2	2	32	-	6	
小城		-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	1	4	12	1	1	25	-	8	
三日		-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-	4	-	3	
牛津		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	1	-	1	-	-	
芦刈		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
小城郡計		-	-	-	-	-	-	-	-	3	5	1	4	14	2	1	30	-	11	

(単位 km²)

色 土		褐色低地上			灰色低地土				グ ラ イ 土				泥 炭 土			鉍害復旧土壌	未区分その他	合 計
暗赤色土壌	計	褐土色低地壌	粗粒褐色低壌	計	細低地灰土色壌	灰土色低地壌	粗土粒灰色壌	計	細土粒グライ壤	グライ土壌	粗土粒グライ壤	計	低土位泥炭壌	黒泥土壌	計			
—	3	1	—	1	45	18	2	65	3	—	1	4	—	3	3	—	17	104
5	20	1	—	1	1	7	8	16	—	—	2	2	1	2	3	—	14	127
—	2	0	0	0	6	16	13	34	—	1	0	1	—	0	0	—	9	72
9	27	0	—	0	2	7	3	12	—	1	—	1	—	—	—	1	3	97
6	40	13	—	13	3	3	1	7	8	—	—	8	—	—	—	—	6	253
—	20	1	—	1	3	7	4	14	4	—	—	4	—	3	3	—	2	129
—	25	5	—	5	2	—	—	2	8	—	—	8	—	—	—	—	6	110
20	137	21	0	21	62	57	31	150	23	2	3	28	1	8	9	1	57	892
—	—	—	—	—	10	—	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	2	12
—	—	—	—	—	26	—	—	26	9	—	—	9	—	—	—	—	7	42
—	—	—	—	—	11	—	—	11	4	—	—	4	—	—	—	—	—	15
—	—	—	—	—	12	—	—	12	2	—	—	2	—	—	—	—	2	16
—	7	1	—	1	0	12	1	13	—	—	—	—	—	1	1	—	1	55
—	6	1	3	4	—	2	1	3	—	2	—	2	—	—	—	—	2	143
—	13	2	3	5	59	14	2	75	15	2	—	17	—	1	1	—	14	283
—	4	1	—	—	9	12	1	22	—	—	—	—	—	0	1	—	1	39
—	—	—	—	—	22	2	—	24	—	—	—	—	—	—	—	—	1	25
—	1	—	—	—	1	6	1	8	—	—	—	—	—	—	—	—	2	11
—	2	—	—	—	1	2	3	6	—	—	—	—	—	—	—	—	0	33
—	4	—	2	2	—	1	0	1	—	—	0	—	—	—	—	—	—	61
—	4	—	2	2	—	1	—	1	—	1	—	1	—	—	—	—	1	41
—	15	1	4	5	33	24	5	62	—	1	0	1	—	0	1	—	5	210
—	1	—	1	1	—	3	3	6	—	—	—	—	—	—	—	—	1	22
—	1	—	—	—	0	2	3	5	—	—	—	—	—	—	—	—	1	19
—	1	—	—	—	10	—	1	11	—	—	—	—	—	0	0	—	2	17
—	—	—	—	—	14	—	—	14	—	—	—	—	—	—	—	—	2	16
—	3	—	—	—	5	—	1	6	—	—	—	—	—	—	—	—	0	13
—	6	—	1	1	29	5	8	42	—	—	—	—	—	0	0	—	6	87
3	11	—	—	—	2	—	2	4	—	1	—	1	—	—	—	3	1	45
—	3	—	—	—	2	4	5	11	—	1	—	1	—	1	1	—	—	20
3	3	—	—	—	6	2	—	8	0	—	—	—	—	0	0	—	1	13
—	—	—	—	—	15	—	—	15	—	0	—	0	—	—	—	—	1	16
6	17	—	—	—	25	6	7	38	—	2	—	2	—	1	1	3	3	94

市町村	土壌統群	岩 石 地	未 熟 土				黒 ボ ク 土			褐 色 森 林 土							赤 黄	
			未 熟 土 壤	残 積 未 熟 壤	砂 丘 未 熟 壤	計	黒 ボ ク 土 壤	淡 色 黒 ボ ク 壤	計	乾 森 性 林 褐 土 色 壤	(黄 褐 色)	(赤 褐 色)	褐 土 色 森 林 壤	(黄 褐 色)	(赤 褐 色)	湿 森 性 林 褐 土 色 壤	計	赤 色 土 壤
浜	玉	-	-	1	1	0	-	0	-	7	-	-	17	-	1	25	-	19
七	山	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	32	-	5	46	-	14
巖	木	0	1	-	1	1	-	1	1	7	2	2	24	7	2	45	-	8
相	知	0	1	-	1	-	-	-	1	15	1	1	30	3	1	52	-	6
北	波	-	-	-	-	-	-	-	-	6	0	-	15	-	0	21	-	2
肥	前	-	-	-	-	-	-	-	-	5	5	-	7	10	-	27	1	6
玄	海	-	-	-	-	-	-	-	-	3	3	-	4	10	0	20	4	1
鎮	西	-	-	-	-	-	-	-	-	0	6	-	3	15	-	24	4	1
呼	子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	5	1	-
東松浦郡計		0	2	1	3	1	-	1	2	52	18	3	133	48	9	265	10	57
有	田	-	-	1	1	-	-	-	-	15	-	-	5	-	0	20	-	2
西	有田	-	-	-	-	0	0	0	2	3	2	1	12	4	0	24	-	8
西松浦郡計		-	-	1	1	0	0	0	2	18	2	1	17	4	0	44	-	10
山	内	-	-	-	-	-	-	-	1	7	2	2	15	3	0	30	-	7
北	方	-	1	-	1	-	-	-	1	3	1	3	7	0	0	15	-	5
大	町	-	0	-	0	-	0	0	-	1	0	-	3	1	-	5	-	1
江	北	-	0	-	0	-	0	0	-	1	1	-	3	1	0	6	-	3
白	石	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	3	0	-	-	4	-	4
福	富	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
有	明	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	5	-	-	0	7	-	3
杵島郡計		-	1	-	1	-	-	-	5	12	4	13	28	5	0	67	-	23
太	良	1	-	-	-	-	4	4	8	-	2	27	1	6	4	48	-	12
塩	田	-	-	-	-	-	-	-	3	2	2	6	4	10	0	27	-	8
嬉	野	-	-	-	-	-	1	1	14	4	0	32	8	2	2	62	1	10
藤津郡計		1	-	-	-	-	5	5	25	6	4	65	13	18	6	137	1	30
郡 計		1	3	1	5	3	7	10	39	166	29	90	408	80	38	850	11	165
国 計		2	5	1	9	4	8	12	64	263	52	149	611	141	52	1,332	13	280

(単位 km²)

色 土		褐色低地上			灰色低地土				グライ土				泥炭土			鉍害復旧土壌	未区分その他	合 計
暗示色土壌	計	褐土色低地壤	粗地粒褐土色低壤	計	細低粒地灰土色壤	灰土色低地壤	粗低粒地灰土色壤	計	細土粒グライ壤	グライ土壌	粗土粒グライ壤	計	低位泥炭壤	黒泥土壌	計			
-	19	2	-	2	-	1	1	2	-	-	2	2	-	-	-	1	52	
-	14	0	-	0	-	1	2	3	-	-	-	-	-	-	-	-	63	
0	8	-	1	1	-	3	1	4	0	-	-	0	-	-	-	0	60	
1	7	-	1	1	1	2	1	4	-	-	-	-	-	-	-	0	65	
-	2	0	-	0	2	-	-	2	1	-	-	1	-	-	-	0	26	
12	18	0	-	0	-	-	0	0	1	-	-	1	-	-	-	0	47	
7	8	1	-	1	1	-	1	2	-	-	-	1	-	-	-	0	36	
7	8	-	-	-	2	-	0	2	1	-	-	1	-	-	-	-	39	
1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	7	
28	95	3	2	5	6	7	6	19	4	-	2	6	-	-	-	1	395	
-	2	1	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	27	
3	11	4	-	4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	39	
3	13	5	-	5	0	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	66	
0	7	-	1	1	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	1	41	
0	5	-	-	-	3	0	-	3	2	-	1	3	-	-	-	0	27	
-	1	-	-	-	4	0	-	4	0	-	-	0	-	-	-	2	12	
3	6	-	-	-	8	-	-	8	1	-	-	1	-	-	-	1	24	
-	4	-	-	-	28	-	-	28	3	-	-	3	-	-	-	1	40	
-	-	-	-	-	4	-	-	4	10	-	-	10	-	-	-	2	16	
-	3	-	-	-	12	-	-	12	2	-	-	2	-	-	-	1	25	
3	26	-	1	1	61	0	-	61	18	-	1	19	-	-	-	2	185	
6	18	-	-	-	2	-	-	2	0	-	-	0	-	-	-	1	74	
-	8	0	-	0	5	3	0	8	2	-	-	2	-	-	-	1	46	
-	11	0	-	0	-	4	1	5	-	-	-	-	-	-	-	1	80	
6	37	0	-	0	7	7	1	15	2	-	-	2	-	-	-	3	200	
46	222	11	11	22	220	64	29	313	39	5	3	47	1	2	3	5	1520	
66	359	32	11	43	282	121	60	463	62	7	6	75	2	10	12	6	2412	

3. 土地利用可能性分級

3-1 土地利用可能性分級別市町村別内訳

(単位 km²)

市町村名	区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計	備考
佐賀市		50	20	8	7	2	—	—	17	104	
唐津市		0	17	39	56	1	—	—	14	127	
鳥栖市		5	16	16	22	4	—	—	9	72	
多久市		2	16	23	43	6	—	4	3	97	
伊万里市		3	48	60	117	15	—	4	6	253	
武雄市		3	27	29	56	10	—	2	2	129	
鹿島市		2	18	23	37	20	—	4	6	110	
市計		65	162	198	338	58	—	14	57	892	
諸富		10	—	—	—	—	—	—	2	12	
川副		25	10	—	—	—	—	—	7	42	
東与賀		12	3	—	—	—	—	—	—	15	
久保田		12	2	—	—	—	—	—	2	16	
大和		—	18	8	27	1	—	—	1	55	
富士		—	3	20	87	31	—	—	2	143	
佐賀郡計		59	36	28	114	32	—	—	14	283	
神埼		9	13	10	4	2	—	—	1	39	
千代田		22	2	—	—	—	—	—	1	25	
三田川		1	7	1	—	—	—	—	2	11	
東脊振		1	5	7	12	8	—	—	0	33	
脊振		—	0	11	43	7	—	—	—	61	
三瀬		—	1	5	27	7	—	—	1	41	
神埼郡計		33	28	34	86	24	—	—	5	210	
基山		—	1	8	10	2	—	—	1	22	
中原		0	2	6	8	2	—	—	1	19	
北茂安		9	2	4	0	—	—	—	2	17	
三根		14	—	0	—	—	—	—	2	16	
上峰		4	4	4	1	0	—	—	0	13	
三養基郡計		27	9	22	19	4	—	—	6	87	
小城		2	5	5	23	8	—	—	1	45	
三日月		2	9	7	2	0	—	—	—	20	

(単位 km²)

区分 市町村名	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地	合計	備考
牛 津	7	3	1	1	—	—	—	1	13	
芦 刈	15	—	—	—	—	—	—	1	16	
小城郡計	26	17	13	26	8	—	1	3	94	
浜 玉	—	4	11	28	8	—	—	1	52	
七 山	—	2	12	40	9	—	—	—	63	
巖 木	—	0	13	31	13	—	3	0	60	
相 知	—	11	12	37	4	—	1	0	65	
北 波 多	2	4	5	15	—	—	0	0	26	
肥 前	—	1	20	26	—	—	—	0	47	
玄 海	0	1	19	15	1	—	—	0	36	
鎮 西	0	2	23	14	0	—	—	—	39	
呼 子	—	—	5	2	—	—	—	0	7	
東松浦郡計	2	25	120	208	35	—	4	1	395	
有 田	—	4	5	12	2	—	2	2	27	
西 有 田	—	8	14	13	3	—	1	0	39	
西松浦郡計	—	12	19	25	5	—	3	2	66	
山 内	1	10	12	16	0	—	0	1	41	
北 方	4	8	3	11	1	—	—	0	27	
大 町	3	3	1	3	0	—	—	2	12	
江 北	11	6	—	5	—	—	—	1	24	
白 石	27	7	—	5	—	—	—	1	40	
福 富	4	10	—	—	—	—	—	2	16	
有 明	10	5	1	8	—	—	—	1	25	
杵島郡計	60	49	18	48	1	—	1	8	185	
太 良	0	3	25	26	15	—	4	1	74	
塩 田	4	8	5	23	5	—	—	1	46	
嬉 野	—	8	16	43	12	—	—	1	80	
藤津郡計	4	19	46	92	32	—	4	3	200	
郡 計	211	195	300	618	141	—	13	42	1,520	
県 計	276	357	498	956	199	—	27	99	2,412	

3-2 土地利用可能性分級と自然的条件との関連

3-2-1 土地利用可能性分級と地形区分との関連

(単位 km²)

土地利用可能性分級 地形区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計	備考
山地・火山地	1	56	215	702	189	—	27	2	1,192	
丘陵地	0	49	189	237	9	—	—	4	488	
台地・段丘	1	14	16	0	0	—	—	8	39	
低地	274	238	78	17	1	—	—	85	693	
合計	276	357	498	956	199	—	27	99	2,412	

3-2-2 土地利用可能性分級と傾斜区分との関連

(単位 km²)

土地利用可能性分級 傾斜区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未市分地)	合計	備考
0°～3° (S1)	276	273	107	6	—	—	—	87	749	
3°～8° (S2)	—	84	136	38	2	—	—	12	272	
8°～15° (S3)	—	—	255	66	25	—	0	—	346	
15°～30° (S4)	—	—	—	846	63	—	—	—	909	
30°～40° (S5)	—	—	—	—	109	—	0	—	109	
40°～ (S6)	—	—	—	—	—	—	27	—	27	
合計	276	357	498	956	199	—	27	—	99	

3-2-3 土地利用可能性分級と標高区分との関連

(単位 km²)

土地利用可能性分級 標高区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計	備考
低暖地帯(H ₁)	276	355	458	742	65	—	9	99	2,002	
山間地帯(H ₂)	—	2	40	214	134	—	18	—	410	
高冷地帯(H ₃)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
生産限界外地帯(H ₄)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計	276	357	498	956	199	—	27	99	2,412	

3-2-4 土地利用可能性分級と土壌生産力可能性との関連

(単位 km²)

土地利用可能性分級 土壌生産力可能性等級区分	1類地	2類地	3類地	4類地	5類地	6類地	7類地	8類地 (未区分地)	合計	備考
はなはだよい (P ₁)	276	12	4	26	4	-	2	-	326	
ややよい (P ₂)	-	345	130	458	53	-	6	-	992	
やや劣る (P ₃)	-	-	364	271	26	-	8	-	669	
劣る (P ₄)	-	-	-	201	116	-	9	-	326	
はなはだ劣る (P ₅)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
岩石・非土壌 地帯	-	-	-	-	-	-	2	-	2	
未区分	-	-	-	-	-	-	-	99	99	
合計	276	357	498	956	199	-	27	99	2,412	

3-3 土地利用可能性分級別主要地域の概要

土地利用可能性分級 地域の概要		1 類 地	2 類 地	3 類 地	4 類 地	
地 域 名 (団地名)		佐賀平野 (佐賀地区)	佐賀平野 (鹿島地区)	上場丘陵地	脊振山地 (脊振中部山地)	
地 形	傾 斜 (谷 密 度)	S ₁ (0° ~ 3°) 0	S ₁ (0° ~ 3°) 0	S ₂ ~ S ₃ (0° ~ 15°) 1 ~ 42	S ₂ ~ S ₅ (3° ~ 30°) 13 ~ 38	
	標 高 (植 栽 限 界)	4 m 0m ~ 10m	5 m 0m ~ 20m	100m 0m ~ 260m	400 m 20m ~ 800m	
表 層 地 質	岩 石 の 種 類	泥 (沖積層)	泥・砂 (沖積層)	玄 武 岩	花 崗 岩 類	
	岩 石 の か た さ	軟	軟	硬	硬 (風化深度大)	
	時 代	第四紀 沖積世	第四紀 沖積世	第三紀 鮮新世 第四紀 洪積世	中生代 白亜紀	
土 壤	農 田	土 壤 統 群 生産力可能性分級	細粒灰色低地土壌 I	細粒グライ土壌 II	暗赤色土壌 II	-
		畑	土 壤 統 群 生産力可能性分級	-	-	暗赤色土壌 III
	草 地	土 壤 総 群 生産力可能性分級	-	-	-	黄色土壌 III
	林 地	土 壤 統 群 地 位 級	-	-	褐色森林土壌 (赤褐色) III	褐色森林土壌 (黄褐色) II
水 利 用	地 表 水	○	○	○	○	
	地 下 水	○	○	△	×	
	天 水	×	×	×	×	
気 候 区 分		西九州内陸型	西九州内陸型	山 陰 型	西九州内陸型	
面 積	土地利用可能性類地別 面積県内合計 (A)	276	357	498	956	
	当該地域の類地別 面積合計 (B)	200	18	96	29.1	
	% (B/A)	72	5	19	30	

5 類 地	6 類 地	7 類 地	8 類 地 (未区分地)	備 考
多良火山地	—	脊 振 山 地 (天山・作礼山地)	佐賀市街地	○ 利 用 △ 若干利用 × 利用せず
S ₃ ~ S ₆ (8° ~ 40°) 2 ~ 30	—	S ₃ ~ S ₇ (8° 以上) 16 ~ 34	S ₁ (0° ~ 3°) 0	
600m 100m ~ 900m	—	500m 200m ~ 800m	4m 2m ~ 6m	
安 山 岩	—	変 成 岩 類	泥 (沖積層)	
硬	—	硬	軟	
第四紀 洪積世	—	古 生 代	第四紀 沖積世	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
—	—	—	—	
乾性褐色森林土壌 IV	—	褐色味林土壌 (赤褐色) III	—	
○	—	×	○	
△	—	×	○	
×	—	×	×	
西九州内陸型		西九州内陸型	西九州内陸型	
199	—	27	99	
29	—	7	17	
14	—	25	17	

3-4 土地利用可能性分級別市町村別内訳

市町村名	類地区分			土地利 用 の 現 況											備 考		
				水 田		畑				草 地		林 地				空 地	
	類 地 区 分	包含される示性式	面積 km ²	土 占 地 利 用 率	平均 収 穫 量 率	普 通 畑		樹 園 地		土 占 地 利 用 率	草 地 の 種 類 およ び 平 均 収 穫 量 率	人 工 林		天 然 林		土 地 利 用 占 有 率	
						土 占 地 利 用 率	主 要 作 物 およ び 平 均 収 穫 量 率	土 占 地 利 用 率	主 要 作 物 およ び 平 均 収 穫 量 率			土 占 地 利 用 率	主 要 樹 種 およ び 平 均 収 穫 量 率	土 占 地 利 用 率			主 要 樹 種 およ び 平 均 収 穫 量 率
佐賀市	1類地	1.11	50	A	稲 106 麦 103												
	2類地	1.12	20	A	稲 103 麦 100	D	大豆 100 春バレイシ 87 野菜										
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	8	A	稲 95 麦 98	D	大豆 95 春バレイシ 87										
	4類地	1.34 1.42 1.43 1.44	7					B	みかん			C	ヒノキ 89	C	広葉樹		
	5類地	1.52 1.54 2.44	2											A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地			17													
市町村計			104														
唐津市	1類地	1.11	0	A	水稻 95												
	2類地	1.12 1.22	17	A	水稻 84 小麦 94	D	大豆 69 秋バレイシ 97 野菜										
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33 2.32	39	B	水稻 80 小麦 92			D	みかん					D	広葉樹		
	4類地	1.14 1.44 1.24 2.42 1.34 1.42 1.43	56					D	みかん			D	スギ 79	B	広葉樹 マツ 防風林		
	5類地	2.34 2.44	1											A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地			14													
市町村計			127														

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
	地区区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他		
				土地利用率	平均収穫量率	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	草地の種類および平均収穫量率	土地利用率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用率		主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	
鳥栖市	1類地	1.11	5	A	水稻103 小麦100													
	2類地	1.12 1.22	16	A	水稻98 小麦97 ビール麦99													
	3類地	1.13 2.31 1.23 2.32 1.32 1.33	16	A	水稻93 小麦92 ビール麦93	D	大豆106 春ハイレ ンショ 野菜 87					D	スギ 89					
	4類地	1.24 1.44 1.34 2.41 1.41 2.42 1.42 1.43	22					D	みかん				B	ヒノキ 92	D	広葉樹		ヒノキ林は 1.42, 2.42 に分布
	5類地	1.52 2.33 2.44 2.52	4												A	広葉樹		
	6類地																	
	7類地																	
	8類地			9														A
市町村計			72															
多久市	1類地	1.11	2	A	水稻95 小麦103													
	2類地	1.12 1.22	16	A	水稻89 小麦101													
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	23	D		大豆104 春ハイレ ンショ 109 野菜	D	みかん				D	スギ 102	D	広葉樹		スギは主に 1.32 1.52 ~3.162~3 および2.62 ~3に分布	
	4類地	1.24 2.42 1.34 2.43 1.42 1.43 1.44	43					C	みかん				C	ヒノキ 102	B	広葉樹		ヒノキは 1.42~4 に分布
	5類地	1.52 2.44 1.53 2.52 1.54 2.53 2.54	6										D	スギ 79	A	広葉樹		
	6類地																	
	7類地	1.62 2.62 1.63 2.63 1.64 2.64	4										B	スギ 86	D	広葉樹		
	8類地			3														A
市町村計			97															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考				
	類地区分	含まれる示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他			
				土占有 利用率	平均収 穫量率	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量 率	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量 率	土占有 利用率	草地の種 類および 平均収穫 量率	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量 率	土占有 利用率		主要樹種 および平 均収穫量 率	土占有 利用率		
伊 万 里 市	1類地	1.11	3	A	水稲95														
	2類地	1.12 1.21 1.22	48	A	水稲86 小麦86														
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	60	C	水稲80 小麦81	D	大豆 94 春バレイ シヨ 99 野菜	D	みかん 梨			D	スギ 108					スギは主 として1.32 と1.42に 分布	
	4類地	1.14 1.43 1.24 2.41 1.34 2.43 1.41 1.42	117					D	みかん 梨			B	スギ 99	D	広葉樹				
	5類地	1.52 2.44 1.53 2.52 1.54 2.53 2.24 2.54 2.34	15									B	ヒノキ75	C	広葉樹 マツ				
	6類地																		
	7類地	1.62 1.63 2.63 2.64	4											A	広葉樹 マツ				
	8類地		6															A	
市町村計			253																
武 雄 市	1類地	1.11	3	A	水稲98 小麦90														
	2類地	1.12 1.22	27	C	水稲95 小麦86														
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	29			D	大豆 97 春バレイ シヨ 105 野菜	D	みかん			D	ヒノキ103					ヒノキは 主に1.32 と1.53に 分布する。	
	4類地	1.24 1.34 1.42 1.43 1.44	56					D	みかん			B	スギ 95	C	広葉樹		スギは 1.42と 1.43に分 布する。		
	5類地	1.52 1.53 1.54	10									C	ヒノキ 69	B	広葉樹				
	6類地																		
	7類地	1.63 1.64 2.63 2.64	2											A	広葉樹				
	8類地		2															A	
市町村計			129																

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
				水田		畑				草地			林地			空地その他		
	土地利用率	平均収穫量率	土地利用率	主要作物おおよび平均収穫量率	土地利用率	主要作物おおよび平均収穫量率	土地利用率	草地の種類おおよび平均収穫量率	土地利用率	主要樹種おおよび平均収穫量率	土地利用率	主要樹種おおよび平均収穫量率	土地利用占有率					
鹿島市	1類地	1.11	2	A	水稻 108													
	2類地	1.12	18	A	水稻 105 小麦 102													
	3類地	1.13 1.23 1.33	23			D	大豆 114 春バレイシ 100 野菜	C	みかん									
	4類地	1.41 2.42 1.42 2.43 1.43 1.44	37					D	みかん			C	スギ 110	C	広葉樹		スギは1.42 および2.62 を中心として 分布する	
	5類地	1.52 1.54 2.44 2.52 2.54	20									B	ヒノキ 101	C	広葉樹		ヒノキは 2.44を主 に分布	
	6類地																	
	7類地	2.50 2.61 2.62 2.63	4									B	スギ 127	D	広葉樹			
	8類地		6														A	
市町村計			110															
諸富町	1類地	1.11	10	A	水稻 113 ビール麦 105 小麦 113 玉ねぎ 110													
	2類地																	
	3類地																	
	4類地																	
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		2														A	
市町村計			12															

市町村名	類地区区分			土地利用の現況													備考		
	地区区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地 その他 土地 利用 占有 率			
				土地 利用 率	平均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量	土 地 利 用 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 穫 量	土 地 利 用 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量	土 地 利 用 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量				
																		普通畑	樹園地
川副町	1類地	1.11	25	A	水稲 111 小麦 114 ビール麦 107														
	2類地	1.12	10	A	水稲 108 小麦 110 ビール麦 105														
	3類地																		
	4類地																		
	5類地																		
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		7																A
市町村計			42																
東与賀町	1類地	1.11	12	A	水稲 110 ビール麦 102 小麦 111														
	2類地	1.12	3	A	水稲 106 ビール麦 98														
	3類地																		
	4類地																		
	5類地																		
	6類地																		
	7類地																		
	8類地																		
市町村計			15																

市町村名	類地区分			土地利用の現況													備考	
				水田		畑				草地			林地					空地その他
	包含される示性式	面積 km ²	土地利用率	平均収穫量率	普通畑	樹園地	草地	種別	土地利用	土地利用	土地利用	土地利用	土地利用	土地利用	土地利用	土地利用		
久保田町	1類地	1.11	12	A	水稲111 ビール麦94 小麦100													
	2類地	1.12	2	A	水稲106 ビール麦92													
	3類地																	
	4類地																	
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		2															A
市町村計			16															
大和町	1類地																	
	2類地	1.12 1.21 1.22	18	A	水稲91 小麦91	D	大豆100 春ハレイ ンョ 89 野菜											
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	8	D	水稲86		A	みかん										
	4類地	1.34 1.42 1.43 1.44 2.42	27				D	みかん			B	スギ 89	C	広葉樹				スギは1.42を主に分布する。
	5類地	1.52 2.44	1										A	マツ 広葉樹				
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		1															A
市町村計			55															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考		
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他	
				土占有率	平均収量率	普通畑	樹園地	土占有率	主要作物および平均収量	土占有率	主要作物および平均収量	土占有率	主要樹種および平均収量	土占有率			主要樹種および平均収量
富士町	1類地																
	2類地	1.21 1.22	3	A	水稻76 野菜												
	3類地	1.23 2.22 1.31 2.31 1.32 2.32 1.33	20	C	水稻72							A	スギ124				スギは2.31 および2.42 を中心として 分布する。
	4類地	1.34 2.23 1.41 2.33 1.42 2.41 1.43 2.42 1.44 2.43	87									B	スギ102	C	広葉樹		
	5類地	1.52 2.34 1.53 2.44 2.52 2.53 2.54	31									D	ヒノキ75	A	広葉樹		ヒノキ造林地は主 に2.44で ある。
	6類地																
	7類地																
	8類地		2														A
市町村計			143														
神埼町	1類地	1.11	9	A	水稻103 小麦104 ビール麦100												
	2類地	1.12 1.22	13	A	水稻101 小麦100 ビール麦97												
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	10	B	水稻96 小麦95	D	大豆115 春バレイ ショ 87 野菜					D	マツ102				マツ造林地 は1.32と 1.44を主に 少量分布す る。
	4類地	1.34 1.42 1.43 1.44	4					B	みかん			C	マツ69	D	広葉樹 マツ		
	5類地	1.52 1.54 2.44	2											A	広葉樹 マツ		
	6類地																
	7類地																
	8類地		1														A
市町村計			39														

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考											
	地区区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他										
				土占有 率	平均収 穫量率	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 率	草地の種 類および 平均収穫 量率	土占有 率		主要樹種 および平 均収穫量	土占有 率	主要樹種 および平 均収穫量	土地利用 占有率							
千代田町	1類地	1.11	22	A	水稲111 小麦106 ビール麦 103																					
	2類地	1.12	2	A	水稲 106 小麦 105																					
	3類地																									
	4類地																									
	5類地																									
	6類地																									
	7類地																									
	8類地			1																					A	
市町村計			25																							
三川町	1類地	1.11	1	A	水稲 102																					
	2類地	1.12	7	A	水稲 104 小麦99																					
	3類地	1.13	1	A	水稲96	大豆116 春バレイ ジョ 88 野菜																				
	4類地																									
	5類地																									
	6類地																									
	7類地																									
	8類地			2																					A	
市町村計			11																							

市町村名	類地区分			土地利用の現況												備考	
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地					空地 その他
				土占有 利用率	平均収 穫量率	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 利用率	草地 の種 類 および 平均 収穫 量率	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量		
東 背 振 村	1類地	1.11	1	A													
	2類地	1.12 1.21 1.22	5	A	水稲98 小麦 102												
	3類地	1.13 1.23 1.33 2.32	7	A	水稲90 小麦96			D	みかん								
	4類地	1.41 2.33 1.42 2.41 1.43 2.42 1.44 2.43	12									B	スギ 99	C	広葉樹		スギは2.42 を中心C造 林地がある。
	5類地	1.52 2.24 1.53 2.34 2.44 2.52 2.53	8											A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地		0														A
市町村計			33														
背 振 村	1類地																
	2類地	1.22	0	A	水稲80												
	3類地	1.33 1.32 1.33 2.31 2.32	11	D	水稲74 飼料作物							A	スギ 113				スギ造林地 は2.32およ び2.42を主 に分布する。
	4類地	1.41 2.33 1.42 2.41 1.43 2.42 1.44 2.43	43	D	水稲65							B	スギ 99	C	広葉樹		
	5類地	1.52 2.34 2.34 2.44 2.54	7									A		A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地																
市町村計			61														

市町村名	類地区分			土地利用の現況										備考			
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑		草地		林地		空地 その他					
				土占有 利用率	平均収 穫量率	普通畑	樹園地	土占有 利用率	草地の種 類および 平均収 穫量率	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量 率		土占有 利用率		主要樹種 および平 均収穫量 率		
三 瀬 村	1類地																
	2類地	1.22	1	A	水稲74 野菜												
	3類地	1.23 1.32 2.31 2.32	5	C	水稲68						B	スギ110					スギが主要 造林木で1.32ホ よび2.42を中 心として分布 する。
	4類地	1.41 2.22 1.42 2.33 1.43 2.41 2.42 2.43	27								B	スギ102	C	広葉樹			
	5類地	2.34 2.44 2.51 2.52	7										A	広葉樹			
	6類地																
	7類地																
	8類地		1													A	
市町村計			41														
基 山 町	1類地																
	2類地	1.22	1	B	水稲 102 小麦 100												
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	8	A	水稲 100 小麦97	D	大豆107 野菜										
	4類地	1.34 1.41 1.42 1.43 1.44	10	D	水稲90 小麦94		D	みかん			A	スギ98					スギの造林 地が多くま た1.42を 対象として いる。
	5類地	1.52 2.44	2										A	広葉樹			
	6類地																
	7類地																
	8類地		1													A	
市町村計			22														

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
				水田		畑				草地		林地				空地その他		
	包含される示性式	面積 km2	土占有率	平均収量率	普通畑		樹園地		土占有率	草地の種類および平均収量率	土占有率	人工林		天然林		土地利用占有率		
					土占有率	主要作物および平均収量率	土占有率	主要作物および平均収量率				土占有率	主要樹種および平均収量率	土占有率			主要樹種および平均収量率	
中原町	1類地	1.11	0															
	2類地	1.12 1.22	2	A	水稻 100 小麦98													
	3類地	1.13 2.32 1.23 1.32 1.33	6	A	水稻97 小麦95	C	大豆 107 野菜	D	みかん									
	4類地	1.34 2.41 1.42 2.42 1.43 1.44	8								B	ヒノキ 96	C	広葉樹			人工林は主にヒノキで1.42と2.42である。	
	5類地	2.34 2.44	22										A	広葉樹				
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		1															A
市町村計			19															
北茂安町	1類地	1.11	9	A	水稻 104 小麦97													
	2類地	1.12 1.22	2	C	水稻 100						D	ヒノキ 88	D	広葉樹			1.22を対象にヒノキで主として人工林が一部ある。	
	3類地	1.13 1.23 1.33	4			D	大豆 106 春バレイショ 86 野菜	D	みかん				B	広葉樹				
	4類地	1.34 1.43 1.44	0															
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		2															A
市町村計			17															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考	
				水田		畑				草地		林地		空地その他		
	面積 km ²	包含される 示性式	土占有 利用率	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土占有 利用率	草地の種 類および 平均収 穫量率	人工林		天然林			土地利用 占有率
					土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量			土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量		
三 根 町	1類地	1.11	14	A	水稻 111 ビール麦 101											
	2類地															
	3類地	1.13	0													
	4類地															
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地			2												A
市町村計			16													
上 峰 村	1類地	1.11	4	A	水稻 107 小麦97											
	2類地	1.12 1.22	4	A	水稻 104 小麦93							D	広葉樹 マツ			
	3類地	1.13 1.23 1.32	4	B	水稻95 小麦91	D	大豆106 春パイン ジョ 88 野菜	D	みかん			D	スギ 82			1.32を主 にしてス ギ人工林 がある。
	4類地	1.34 1.42 1.43	1										A	広葉樹		
	5類地	2.34														
	6類地															
	7類地															
	8類地			0												A
市町村計			13													

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
				水田		畑		草地		林地		空地その他						
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	土地利用率	平均収穫量率	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	草の種別および平均収穫量率	土地利用率	主要樹種および平均収穫量率	土地利用率		主要樹種および平均収穫量率	土地利用占有率	
小 城 町	1 類地	1.11	2	A	水稲103 小麦108													
	2 類地	1.12	5	A	水稲100 小麦107													
	3 類地	1.13 1.23 1.32 1.33	5	A	水稲 97 小麦103	D	春レイン シ、106 野菜											
	4 類地	1.42 1.43 1.44 2.42	23					C	みかん				B	スギ100	D	広葉樹		スギは1.42 ヒノキは2. 54を中心 に人が分 布する。
	5 類地	1.53 1.54 2.44 2.52 2.54	8										D	ヒノキ75	A	広葉樹 原野		
	6 類地																	
	7 類地	2.64	1												A	広葉樹		
	8 類地		1															A
市町村計			45															
三 日 月 町	1 類地	1.11	2	A	水稲108 小麦109													
	2 類地	1.12	9	A	水稲106 小麦107 ビール麦 100													
	3 類地	1.13 1.33	7	A	水稲 103 小麦104 ビール麦 97	D	春レイン シ、100 大豆115 野菜	D	みかん									
	4 類地	1.42 1.43 1.44	2		水稲 97 小麦100				B	みかん			C	ヒノキ96				人工林の主 要樹種はヒ ノキで1.42 ~4%主とし て分布する。
	5 類地	2.44	0												A	広葉樹		
	6 類地																	
	7 類地																	
	8 類地																	
市町村計			20															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考	
				水田		畑				草地		林地				空地その他
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	土占有 率	平均収 穫量率	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 率	草地の種類 および平 均収穫量	土占有 率	主要樹種 および平 均収穫量	土占有 率		主要樹種 および平 均収穫量
牛 津 町	1類地	1.11	7	A	水稲112 小麦108 ビール麦											
	2類地	1.12	3	A	水稲107 小麦106											
	3類地	1.23 1.33	1				A	みかん				D	スギ79			
	4類地	1.43 1.44	1				B	みかん					C	広葉樹		
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地			1												A
市町村計			13													
芦 刈 町	1類地	1.11	15	A	水稲115 小麦105 ビール麦 97											
	2類地															
	3類地															
	4類地															
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地			1												
市町村計			16													

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考				
	地区区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他			
				土地利用率	平均収獲量率	土地利用率	普通畑		樹園地		土地利用率	草の種別および平均収獲量率	土地利用率	人工林		天然林		土地利用占有率	
							土地利用率	主要作物および平均収獲量	土地利用率	主要作物および平均収獲量				土地利用率		主要樹種および平均収獲量	土地利用率		主要樹種および平均収獲量
浜玉町	1類地																		
	2類地	1.12 1.22	4	B	水稲91 小麦91					D	みかん								
	3類地	1.13 2.31 1.23 2.32 1.32 1.33	11	C	水稲85 小麦87								D	スギ113				スギの人工林が2.32と2.42に分布する。	
	4類地	1.14 1.44 1.24 2.33 1.34 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43	28								B	みかん		C	スギ100	D	広葉樹		
	5類地	1.53 2.34 2.44	8													A	広葉樹		
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		1																A
市町村計			52																
七山村	1類地																		
	2類地	2.21	2	B	水稲79									C	スギ143				人工林はスギを主体として2.21の9割が1.32、1.42に分布する。
	3類地	1.23 1.32 1.33 2.32	12	D	水稲75									B	スギ124				
	4類地	1.41 2.33 1.42 2.41 1.43 2.42 1.44 2.43 2.23	40								D	みかん		B	スギ96	D	広葉樹		
	5類地	1.53 2.34 2.44 2.52 2.54	9											D	ヒノキ82	A	広葉樹	ヒノキは2.52と2.44に分布する。	
	6類地																		
	7類地																		
	8類地																		
市町村計			63																

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
	地区区分	包含される示式	面積 km ²	水田		畑				草地			林地			空地その他		
				土地利用率	平均収 穫量率	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率		主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土地利 用 占 有 率	
																		普通畑
木 敷 町	1類地																	
	2類地	1.2 2	0	A	水稲91													
	3類地	1.13 2.32 1.23 1.32 1.33 2.22	13	D	水稲88 小麦86			D	みかん			B	スギ102					スギは1.33 のみか2.42 2.53(注)の 布する。
	4類地	1.24 2.33 1.34 2.41 1.42 2.42 1.43 2.43 1.44	31	D	水稲82 小麦82			D	みかん			C	スギ113	D	広葉樹			
	5類地	1.52 2.52 1.53 2.53 1.54 2.54 2.34 2.44	13									C	スギ 96	D	広葉樹			
	6類地																	
	7類地	1.6 3 2.30 2.63 2.64	3										D	ヒノキ75	B	広葉樹		ヒノキの人 工植付と して2.63 である。
	8類地		0														A	
市町村計			60															
相 知 町	1類地																	
	2類地	1.1 2 1.2 2	11	A	水稲93 小麦94													
	3類地	1.1 3 1.2 3 1.3 2 1.3 3	12	B	水稲87 小麦90							D	ヒノキ104	D	広葉樹			ヒノキは1. 32スギは 1.42(注) として布 する。
	4類地	1.24 2.42 1.34 2.43 1.42 1.43 1.44	37					D	みかん			B	スギ100					
	5類地	1.52 2.34 1.53 2.44 1.54 2.52 2.53	4											A	広葉樹			
	6類地																	
	7類地	1.6 4 2.6 3 2.6 4	1												A	広葉樹		
	8類地		0														A	
市町村計			65															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考	
				水田		畑				草地		林地				空地その他
	地区区分	包含される示性式	面積 km ²	土占有利用率	平均収獲量率	土占有利用率	主要作物および平均収獲量率	土占有利用率	主要作物および平均収獲量率	土占有利用率	草地の種類および平均収獲量率	土占有利用率	主要樹種および平均収獲量率	土占有利用率		主要樹種および平均収獲量率
北波多村	1類地	1.11	2	A	水稲95 小麦92											
	2類地	1.12 1.22	4	A	水稲90 小麦90							D	スギ128			スギの人工林は1.22と1.42でヒノキが1.33を主に分布する
	3類地	1.32 1.33	5	B	水稲87 小麦88							D	ヒノキ83	D	広葉樹	
	4類地	1.14 1.43 1.31 1.44 1.41 1.42	15				D	みかん				D	スギ92	B	広葉樹	
	5類地															
	6類地															
	7類地	1.64	0											A	岩石地 広葉樹	
	8類地		0													A
市町村計			26													
肥前町	1類地															
	2類地	1.12 1.22	1	B	水稲87 小麦96											
	3類地	1.23 1.32 1.33	20	C	水稲82 小麦94	C	大豆65 小麦110 秋シメシメ89	D	みかん							
	4類地	1.24 1.34 1.42 1.43 1.44	26									D	スギ79	A	広葉樹	
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地		0													A
市町村計			47													

市町 村名	類地区分			土地利用の現況											備考		
				水田		畑				草地			林地			空地 その他	
	類地区分	包含される 示性式	面積 km ²	土 地 利 用 率	平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 作 物 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	草 地 の 種 類 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率	主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率		主 要 樹 種 お よ び 平 均 収 穫 量 率	土 地 利 用 率
女 海 町	1類地	1.1 1	0	A	水稲90												
	2類地	1.1 2 1.2 2	1	A	水稲80 小麦97												
	3類地	1.1 3 1.2 3 1.3 2 1.3 3	19	C	水稲73 小麦94	D	大豆 65 小麦110 秋レイ シ 95	D	みかん								
	4類地	1.2 4 1.3 4 1.4 1 1.4 2 1.4 3 1.4 4	15									C	スギ79	B	広葉樹		
	5類地	1.5 2 1.5 3 1.5 4	1											A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地		0														A
市町村計			36														
鎮 西 町	1類地	1.1 1	0	A	水稲90												
	2類地	1.1 2 1.2 1 1.2 2	2	B	水稲80 小麦98												
	3類地	1.1 3 1.2 3 1.3 1 1.3 2 1.3 3	23	C	水稲76 小麦95	D	大豆 65 小麦112 秋レイ シ 104	D	みかん			D	スギ79				
	4類地	1.2 4 1.3 4 1.4 2 1.4 3 1.4 4	14									D	セギ75	A	広葉樹		
	5類地	1.5 3 1.5 4	0											A	広葉樹		
	6類地																
	7類地																
	8類地																
市町村計			39														

市町村名	類地区分			土地利用の現況												備考		
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地					空地 その他	
				土地利用率	平均収穫量率	普通畑	樹園地		土地利用率	草地の種類および平均収穫量率	人工林	天然林		土地利用占有率				
呼子町	1類地																	
	2類地																	
	3類地	1.13 1.23 1.32	5	D	水稲74 小麦95	C	大豆65 小麦110 春ライシヨ125						D	マツ86				
	4類地	1.42 1.43 1.44	2												A	広葉樹		
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		0															A
市町村計			7															
有田町	1類地																	
	2類地	1.22	4	B	水稲85 小麦95							C	スギ86					
	3類地	1.13 1.32 1.33	5	C	水稲79 小麦91	D	大豆94 野菜						D	ヒノキ95				ヒノキ人工林は1.32を占める。
	4類地	1.24 1.34 1.42 1.44	12					D	みかん			B	マツ80	D	広葉樹			マツの人工林は1.34および1.54を生産はわめて多い。
	5類地	1.54	2									A	マツ69	D	広葉樹 マツ			
	6類地																	
	7類地	1.64 2.64	2												A	広葉樹 マツ		
	8類地		2															A
市町村計			27															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑		草地		林地		空地 その他	土地利用 占有率					
				土占有 利用率	平均収 穫量率	普通畑	樹園地	土占有 利用率	草地 の種 類お よび 平均 収穫 量率	土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫 量率			土占有 利用率		主要樹種 および平 均収穫 量率		
西 有 田 町	1類地																	
	2類地	1.1 2 1.2 2	8	A	水稻98 小麦97						D	スギ90						
	3類地	1.1 3 1.2 3 1.3 2 1.3 3	14	C	水稻88 小麦93	D	大豆105 春バレイ シヨ107 野菜	C	みかん			D	ヒノキ95					
	4類地	1.24 2.43 1.34 1.42 1.43 1.44	13						D	みかん		A	マツ85				マツが人工 林の主体で 1.43, 1.54 および2.54 に分布する。	
	5類地	1.5 4 2.3 3 2.3 4	3								B	マツ70	C	広葉樹				
	6類地																	
	7類地	1.6 4 2.6 4	1										A	広葉樹				
	8類地		0															A
市町村計			39															
山 内 町	1類地	1.1 1	1	A	水稻95													
	2類地	1.1 2 1.2 2	10	B	水稻89 小麦80						C	スギ86						
	3類地	1.1 3 1.2 3 1.3 2 1.3 3	12	D	水稻83 小麦77	D	大豆 94 春バレイ シヨ108 野菜	D	みかん			D	マツ100	D	広葉樹			マツの人工 林を占し 1.33および 1.34(主 し)に分布する。
	4類地	1.2 4 1.3 4 1.4 2 1.4 3 1.4 4	16								C	マツ80	B	広葉樹				
	5類地	2.5 4	0										A	広葉樹				
	6類地																	
	7類地	1.6 4 2.6 4	0										A	広葉樹				
	8類地		1															A
市町村計			41															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	水田		畑				草地		林地				空地その他		
				土地利用率	平均収穫量率	普通畑	樹園地	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	主要樹種および平均収穫量	土地利用率		主要樹種および平均収穫量	土地利用占有率	
北方町	1類地	1.11	4	A	水稲114 小麦103													
	2類地	1.12 1.22	8	C	水稲106 小麦96	D	大豆100 春小麦 シホ101 野菜						D	スギ110				
	3類地	1.32 1.33	3					D	みかん				B	スギ86	D	広葉樹		
	4類地	1.24 1.34 1.42 1.43 1.44	11						D	みかん			C	ヒノキ95	B	広葉樹		
	5類地	1.52 1.53 1.54 2.54	1												A	広葉樹		
	6類地	1.63	0												A	広葉樹		
	7類地																	
	8類地		0															A
市町村計			27															
大町	1類地	1.11	3	A	水稲116 小麦107 ヒール小麦98													
	2類地	1.12 1.22	3	C	水稲108 小麦103 ヒール小麦95	D	大豆93 春小麦 シホ99 野菜						D	スギ110				
	3類地	1.32 1.33	1										A	ヒノキ100				
	4類地	1.24 1.34 1.42 1.43	3					D	みかん				D	ヒノキ95	B	広葉樹		
	5類地	2.44 2.54	0												A	広葉樹		
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		2															A
市町村計			12															

市町村名	類地区分			土地利用の現況											備考			
				水田		畑				草地		林地				空地その他		
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	土占有 利用率	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土占有 利用率	草地の種 類および 平均収 穫量率	土占有 利用率	人工林			天然林		土地利用 占有率
						土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量	土占有 利用率	主要作物 および平 均収穫量				土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量		土占有 利用率	主要樹種 および平 均収穫量	
江北町	1類地	1.11	11	A	水稲113 ヒール麦97 玉ねぎ105													
	2類地	1.12 1.22	6	A	水稲107 ヒール麦94							D	スギ105					
	3類地	1.13 1.23 1.33	1			B	大豆96 春シヤ95 野菜					C	ヒノキ97					
	4類地	1.34 1.42 1.43 1.44	5					C	みかん					B	広葉樹			
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		1															A
市町村計			24															
白石町	1類地	1.11	27	A	水稲116 ヒール麦98 玉ねぎ109													
	2類地	1.12	7	A	水稲12 ヒール麦96 玉ねぎ106													
	3類地																	
	4類地	1.42 1.43 1.44	5					C	みかん			C	ヒノキ100	C	広葉樹			
	5類地																	
	6類地																	
	7類地																	
	8類地		1															A
市町村計			40															

市町村名	類地区区分			土地利用の現況											備考	
				水田		畑				草地		林地				空地その他
	類地区区分	包含される示性式	面積 km ²	土地利用率	平均収穫量率	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	主要作物および平均収穫量	土地利用率	草地の種類および平均収穫量率	土地利用率	主要樹種および平均収穫量	土地利用率		主要樹種および平均収穫量
富町	1類地	1.11	4	A	水稲118 ヒール麦100 玉ねぎ115											
	2類地	1.12	10	A	水稲111 ヒール麦94 玉ねぎ110											
	3類地															
	4類地															
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地		2													A
市町村計			16													
有明町	1類地	1.11	10	A	水稲116 ヒール麦96 玉ねぎ109											
	2類地	1.12	5	A	水稲112 ヒール麦94 玉ねぎ106											
	3類地	1.32	1			D	大豆100 春マイン ショ96 野菜					A	ヒノキ100			
	4類地	1.42 1.43 1.44	8					D	みかん		C	ヒノキ83	B	広葉樹		
	5類地															
	6類地															
	7類地															
	8類地		1													A
市町村計			25													

市町村名	類地区分			土地利用の現況													備考		
				水田		畑				草地		林地				空地その他			
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	土占有 率	平均収 穫量率	土占有 率	普通畑		樹園地		土占有 率	草地 の種 類	土占有 率	人工林		天然林		土地 利用 占有 率	
							土占有 率	主要作物 および 平均 収穫 量	土占有 率	主要作物 および 平均 収穫 量				土占有 率	主要樹種 および 平均 収穫 量	土占有 率			主要樹種 および 平均 収穫 量
太良町	1類地	1.11	0	A	水稲105 小麦114														
	2類地	1.12 1.22	3	C	水稲 95 小麦 108														
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	25	C	水稲 85 小麦 100	D	大豆117 春シヨ105 野菜	C	みかん										
	4類地	1.24 2.41 1.41 2.42 1.42 1.43 1.44	26						D	みかん			B	スギ118	D	広葉樹			スギの人工 林の獲目的 で1.42および 1.52(注) に分布する。
	5類地	1.51 2.52 1.52 2.54 2.34 2.44 2.51	15										C	スギ110	B	広葉樹			
	6類地																		
	7類地	2.50 2.60	4												A	広葉樹			
	8類地		1																A
市町村計			74																
塩田町	1類地	1.11	4	A	水稲105 小麦101														
	2類地	1.12 1.21 1.22	8	A	水稲99 小麦98														
	3類地	1.13 1.23 1.32 1.33	5	C	水稲92 小麦95	D	大豆109 春シヨ96 野菜	D	みかん						D	広葉樹			
	4類地	1.24 1.42 1.43 1.44	23						D	みかん			B	スギ82	D	広葉樹			スギが1.4 2~3マツ が1.54を 占めて分布 する。
	5類地	1.52 1.53 1.54	5										C	マツ57	O	広葉樹			
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		1																A
市町村計			46																

市町村名	類地区分			土地利用の現況												備考			
				水田		畑				草地		林地		空地その他					
	類地区分	包含される示性式	面積 km ²	土占有 率	平均収 穫量率	普通畑		樹園地		土占有 率	草地の種 類および 平均収 穫量率	土占有 率	人工林		天然林		土地利用 占有率		
						土占有 率	主要作物 および平 均収穫量 率	土占有 率	主要作物 および平 均収穫量 率				土占有 率	主要樹種 および平 均収穫量 率	土占有 率			主要樹種 および平 均収穫量 率	
野 町	1類地																		
	2類地	1.12 1.22	8	A	水稲 96 小麦 106														
	3類地	1.13 2.32 1.23 1.33 1.32 2.22	16	C	水稲 85 小麦 102	D	大豆 105 春小麦 96 野菜	D	みかん 茶			D	ヒノキ 96					ヒノキは2.32, 1.52, 2.52, 2.34 (中心)の分布する。	
	4類地	1.24 1.44 1.34 2.33 1.41 2.41 1.42 2.42 1.43	43					D	みかん 茶			B	スギ 93	D	広葉樹			スギ人工林が多いので1.42を中心(中心)の分布する。	
	5類地	1.52 1.54 2.34 2.44 2.52	12									D	ヒノキ 64	B	広葉樹				
	6類地																		
	7類地																		
	8類地		1															A	
市町村計			80																
市町村計 (地域計)	1類地																		
	2類地																		
	3類地																		
	4類地																		
	5類地																		
	6類地																		
	7類地																		
	8類地																		
市町村計 (地域計)																			